愛國婦人會機關

愛國婦人會の目的は軍人遺族及び癈兵を救護するにあり

愛國婦人

毎月五日二十日發行

一部金參錢　一ヶ月金六錢　半年分參拾六錢　全國無郵送料

廣告料一行四拾錢

本號全部禁轉載

東京麹町區（牛ヶ淵公園）

發行所　愛國婦人發行所

發行兼印刷人　山澤俊夫

編輯人　手島益雄

社説

◎聖なる事業

口に博愛を唱へ慈善を説き、大きな事を云ひ居れど、愈々實行の段となれば、吠へたる犬の逃げ出す如く、案に違はず逃げ出すが、常の世の中人心なるに、さりとは感心の婦人もあればあるものかな。

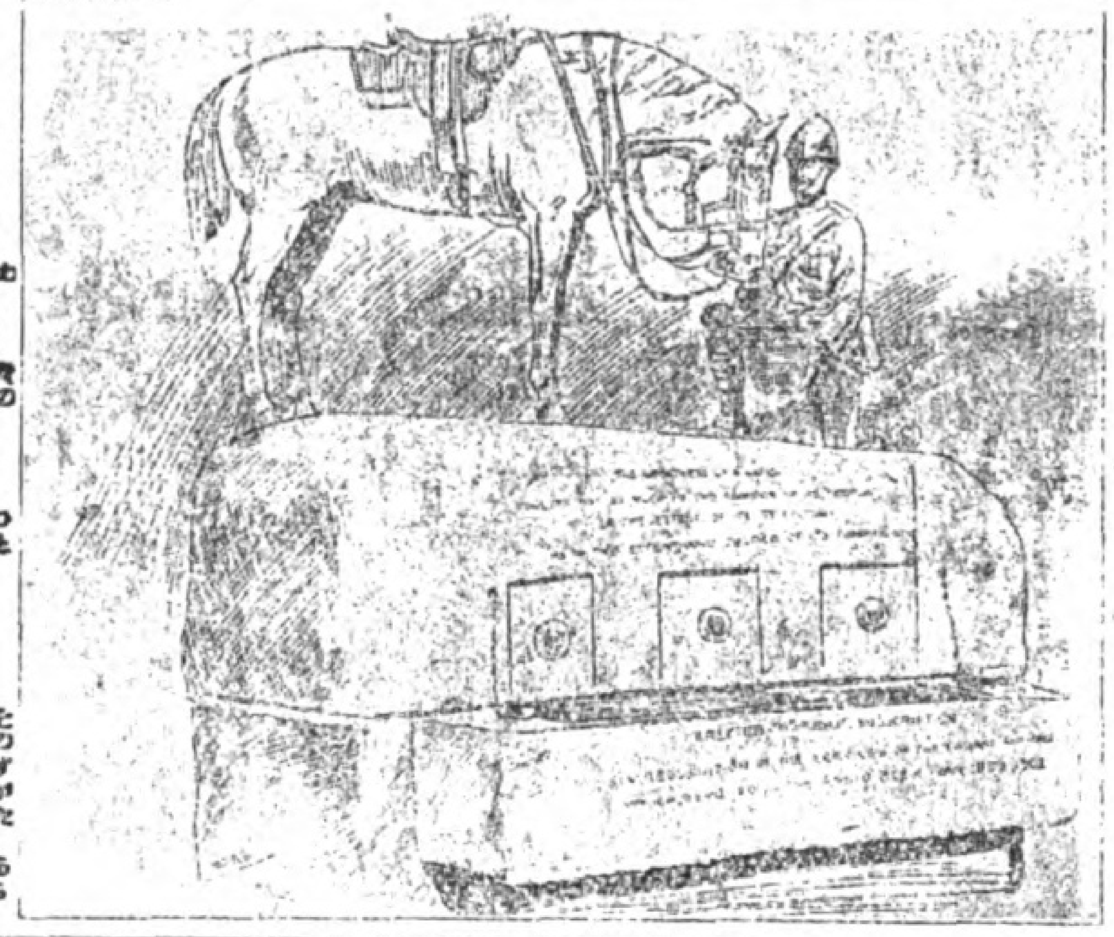
英國人ハンナ、リデル孃は、夙に慈善の事に志厚く、明治二十三年英國傳道會社の囑を受けて本邦に渡來し、偶々熊本市本妙寺に遊び、路傍に乞丐せる多數の癩病患者あるを見、慘然として惻隱の心を起し、之が救濟に決心し、百難を排し、經營幾歳遂に熊本回春院を創立し、多數の患者を收容施治したる顯著なる効績に對し、其善行を表彰するため、此程外國婦人の身を以て明治十四年勅定の藍綬褒章を授與されたり。これ我が同盟國婦人の一大勝利にあらずや。本妙寺前の癩病患者は幾十年來否幾百年來一年三百六十五日、毎日數十百人の眼に觸れたるものなり、しかも彼等は寧ろ指笑嫌惡の種となりて、長へに其憐れむべき惱苦より救はるゝこと能はざりしなり。然るに一たび外國婦人リデル孃の慈みある靈なる眼に彼等の映ずるや、彼等は救はれたるなり。世人は名聞を追ふて空論を説く間に、沈默なる彼女は、其事業の神聖に、患者の瘍瘡膿血の衣を汚し、身に滴るを甘受し、十數年一日の如く、其治療に從事したる其信念と勇氣と忍耐とを心あるものは仰ぎ見よ。婦人は斯る事をも爲すものなり。飽食暖衣逸居するものは方に氣死すべし、婦人の事業は癩病患者の治療に限らずと雖も、すべて事を爲すにはリデル孃の此精神に限るなり、これ文明國婦人の眞骨頂なり、我等は戰後日本婦人の面目として勃興すべき、勃興せざるべからざる博愛慈善事業の活ける手本を、今日同盟國の一婦人より得たるを感謝し推稱するものなり。

◎凱旋の光景

此頃國内を旅行すれば、方々にて滅多に見られぬ光景に接するを得べし、そは凱旋の有樣にて、迎へらるゝ者と迎ふる者との間に起る精神的感動これなり。余は或る村驛に於て赤線付けたる近衞の歩兵二人が、農馬に乘せられ、村の者大勢後に付き添ひて、野道を我が家に還り行くを見たり、其馬を連れて來れる者の心中と乘れる者の心地とを想像せよ、如何なる文も詩も、之を寫すには、餘りに力弱きにあらずや。余は又或る町に於て兄が、汽車より降り來れる兵士の中に、弟を見付け、物をも言はず手を執りて、群集の間をかき分け行くを見たり、戰爭にも出た程の弟なり、手を執らずとも、倒れもせず迷ひもせざれど、執らずには居れぬなり。たゞ泣く母、笑ふ妻、まつはる子、古き友達、此瞬間彼れも是れも皆本性の善に歸りて、一點世間的汚濁惡念を止めず、眞に極樂の光景なり、芝居は何時でも觀られ、會には何時でも行かるれども、かゝる光景は今でなくては、一生接するの期なきなり、爵位も金錢の力も現出する能はざる此神聖なる光景に接し得るの幸運を思ひ、精神修養のため、人格高上の爲めに、凱旋軍人歡迎の仲間となつて、此貴重なる教訓の賜を受けよ。

◎遺族の悲み

軍人の凱旋につけて、今更氣の毒に堪へざるは、凱旋を待設けたる人々に待つべき當人の還り來ぬことなり。國家の爲に身を捧げたるは、當人は素より、一家の譽れ一門の面目是上あるべからずと雖も、其所にはまた人情といふものありて、同じく出征せる友達同僚は凱旋して一家を始め親族近所の目出度がりて騷ぎまはるに、我が頼める人のみは其姿を顯はさゞるとき、實に言ふべからざるの悲痛落寞を感ずるなるべし、世間は凱旋の歡迎に氣を取られて、歡迎の裏面に寂しく泣ける數十萬の同胞あることを漸く忘れんとするの今日、其慰安と救護に挺身努力するは、涙と同情を生命とする婦人第一の任務にあらずや。



◎小兒の家庭教育（六）

ドクトル　川瀬元九郎

父親のことを嚴父と云ひまた書きます、父親は威嚴が無ければなりませぬが、母親も矢張り母親としての威嚴がなければ母親の責任を全ふすることが出來ませぬ、故に殊更に嚴父など云ふにも及ぶまいと思ひます、然るに實際は親父は慈愛のある親切なる父親として、小兒の腦裡に印象してあるのは極めて少ない、多くは嚴めしき父、こわい父、叱る父として小兒に考へられて居るのが多いやうに思はれる、父親は地震、雷、火事なぞと同樣に恐ろしきものと一般に思はれて居ると見へます、是れは小兒の教育上不都合なことであらうと思ふ、父親は家族に於て主權者であるから敬意を表しなければならぬ、けれども唯だ威嚴のみでは宜しくない、故に父親たるものは妻や小兒に對して成るべく溫和なる言語を用ひることが必要であらう、また父親の責任は家族に入用な金品を供給することのみではないからして、業務上の都合を見計らひて朝なり夕なり閑暇のある場合には、妻女と共に談話をなし、或は幼少なる小兒を相手にして室内遊戲をなす等、小兒に接近して親父の慈愛を小兒に示すがよからうと思ひます、父親として小兒や妻を愛しないものは一人としてあるまい、けれどもこの愛を示すことが必要である、小兒にお伽噺をして聞かせたり、小兒と盲鬼やかくれんぼをして居る間に、小兒の一個々々の性質を研究することも出來るし、また惡しき所は知らず〱の間に矯正し、善き所は是れを助けて充分に發達せしむることが出來る、父と云ふことを忘れて、妻女と同樣になつて時間の許す限り愉快に遊び語ることは極めて大切なことである、また妻女と共に成るべく日々食事をすることも必要なことであります、小兒の教育は母親のみに任せないで父親もこれを助けるが宜しい、また是れに依りて父親は小兒の利益よりも何よりも第一に自分が愉快である、先づ是れでも父たり母たる報酬は十分であります、斯樣にして父親も家族と共に樂しむことを第一の愉快なることゝし、家族のものも父親の歸宅を第一の樂しみとして待つて居るやうにしなければならぬ、是れは社會の惡風を改良する上に於て善き方法であると思ふ、吾々は如何かで氣を散ずる道がなければならぬから、これを家庭ですることにするが宜い、惡しき所へ態々出掛けて行くには及ばぬであらう、斯くすれば一家常に平和で、天國を形作ることが出來やうと思ひます。（完）

◎戰馬紀念碑

（威容堂々たる騎士と駿馬の挿畫を見よ）

最善最美、無類の意匠に成れる銅製の戰捷紀念碑除幕式は、此程南亞弗利加ポート、エリザベスなる所に於て擧行されたり、碑は大に世人の注目をひき、甚だしく嘆美されたり、この碑を作るに就いては、少數人の出金に依りて出來したるにあらず、この廣闊なる大陸國（南阿弗利加の英領地を云ふ）各地方の人民多數が、少額づゝの寄附に依りて、初めて鑄造せられたるものなり、その形狀は、駿逸なる戰馬の巨大なる花崗石の臺石の上に立ち、その側に甲を戴ける一人の騎士跪きてバケツを携へ、馬は今その器より水を飲まんとする實物大のものなり、鉅大なる水槽は、礎の前に据ゑられ、三箇の銀製の放管あり湧出する瑠璃の如き水を受けつゝあり、この水槽は犬、牛、驢馬または馬等の來りて渇を癒やすに用ひらるゝものなり、素より南阿弗利加にては、一年中大抵は極めて蒸し暑きが故に、この立派なる水飲場は實用上最も價値あるものにして、獨り南方の國を旅行せるもの斯くの如き公の設備の有用なることを知れり、この適切なる碑銘は、大花崗岩にいと鮮かに誌されり、湧泉の上には「國民の偉大なるは人民の數多きと又は其の領土の擴大なることにあらずして都て其の國民の抱ける憐愍の情の宏大にして正しきにある也」また水槽の前面には「千八百九十九年より千九百二年に渉る英杜戰爭に斃れたる雄偉なる動物（馬）の勞役に對し感謝の意を表せんが爲め公衆の義捐に依りて是れを建つ」とあり、幾千の壯麗なる馬、綺麗なる驢、力ある牛等はこの悲しむべき四箇年（英杜戰爭中）間に於て犧牲となれり、是等動物の最期はこの戰役の大悲劇の一部なり、多くの貴き戰馬はその優秀なる速力及び忍耐によりてその乘れる者を救ひたり、幾百の騎兵は己れの足下にその乘馬を射殺されたり、幾多の會戰に馬は傷きたるまゝ戰場に遺されたり、兵士は數次己れの乘馬を悲慘なる苦悶より救ひ出さんとしてその短銃をその頸に當てざるを得ざるに至りて慟哭せることもありき、馬は茫々たる平原を横りて日夜間斷なき淋しき進軍に際し、最も忠實にしてまた愛らしき友人たりしが故なり。

電話番町五百二十番

本號には愛國婦人會新年互禮會光景の寫眞版あり

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

◎枯れたる頭に新らしき福音

東京市長　尾崎行雄

人間には男女相親しむと云ふ性質を有つて居りますから、交際場裡に於ては男女打混らねば意思の滿足を得ることが出來ません、故に日本の宴會などには貴婦人令嬢が臨席せられぬ爲めに、其缺けたるを補ふの手段として止むなく醜業婦などを招くのであります、是れは確かに社會の缺點であります、今日の如き有樣では、人格の高き人と劣等なる情慾の奴隷たる人との境界が立たなくなつて、品性の卑しき人も人格の高き人の袖の下に隱れて、其醜惡を行ふといふ厭ふべき風俗がありますが、これは何れの時か一掃しなくてはなりません、故に近來では夫人携帶會などと云ふものが出來て、殊更宴會などに夫人を同伴するやう仕組を爲すものもありますが、兎角夫れが未だ都合よく運ばれぬ、其行はれぬ原因の一は斯かる仕組の許に成立つたる宴會でさへも婦人は婦人、男子は男子と自然席が區別されるやうになつて居りまして、男女互に相親しく交際すると云ふことが出來ぬからであります。

併し此親しく交際すると云ふことは甚だ六ケ敷い事柄で苟且にも醜聞などが其間より漏れたならば、萬の計畫は破壞されて仕舞ふ、其醜聞たる事實無根であつても、その交際は杜絶せねばならぬ、婦人との交際には男子に於て十分に注意を拂ひ「親しうして以て之れを敬す」と云ふ心懸が必要であるが貴婦人令嬢に於ても其品格を保つ上には多大の注意を拂はねばならぬ、醜業婦等の眞似をするが如きことは苟且にもしてはならぬ、歐洲の婦人は此點に於ては潔齋の如き行動を採り假令ば午後六時からは醜業婦が外出すると聞けば、貴婦人令嬢は其時間決して一人では外に出ない、公園でも醜業婦のよく通行する途は通行しない、其他髮の飾りから衣服の作りまで違へると勉め、醜業婦の方から眞似やうとしても決して眞似のできぬやうに骨折つて居る、それは社會の狀態からして餘儀なくせられ、自己防禦上からも行ふのであるが、日本でも其階級を判然と立てるの必要があると思ひます。

日本の婦人には宴會の席へ出ても話しの種が尠ない、婦人は元來よく話す辯舌と、多くの話種とを持つて居るものである、米國あたりでは婦人よりして男子が話しの種の供給を受ける程である、何故かなれば男子は自己の職業の範圍丈けのことには精通して居るが、社會のあらゆる事柄を知る隙を持たぬ、夫れに反して婦人は家に在つて隙が多から文學を研究しては其文學上の話しを男子に供給したり、新聞雜誌を精讀しては各國に於ける重大なる社會上の出來事を傳へる等皆な婦人の任務の如くになつて居る、殊に婦人は天然の美音と發音の關係等よりして談話術には長けて居る、とても男子の企て及ぶ所でないから、宴會の席等では、男子が胃の腑を滿すに先つて、頭の枯れたる處に婦人から新らしき福音を受けることを要求する人も多い、それで日本の婦人も智識の方面を倚ほ一層發達せしめ、一方には品格を高めることにつとめ、清潔なる紳士淑女の交際を行ふことにしたならば、社會改良上重大なる利益を享けることが出來ると思ふ。

◎活動の清泉

女子學院長　矢島楫子

▲女子と信仰　信仰と云ふものは人間が世を渡る一つの楫でありますから、男女共に必要のことであるは云ふまでもないが、殊に女子は、必要であります、家庭の紊亂、道德の腐敗等、是等忌むべく厭ふべきことは堅き信仰ある女子に依りて救はるゝことが澤山にあります、又た勇氣なく、多く引込み思案の女子でも、信仰の力に依つて偉大なる活動をなすことがあります、信仰は女子にとりて最も貴き靈藥であります。

▲遠慮と信仰　日本の女子は一般に遠慮勝ちの人が多いかと思はれます、假令ば慈善事業や、社會事業に盡力しやうと思ひながら、世間から何んとか批難をされはすまひかと云ふので、自己の一身のみを潔くする爲めに、折角思ひ立つた善事を放擲して引込んで了ふと云ふ傾きがあります、是れは昔し女大學や、朱子の小學を讀みました習慣から來ましたことゝて、敎育ある人程夫れ丈け餘計に遠慮をされるやうに思はれます、此一事は遺憾ながら日本女子の一大缺點であると斷言することを憚かりませぬ、然るに何に宗敎たるを問はず、一つの信仰を有して居る女子は、非常に決心の堅い所がありますから、割合に遠慮を致しません。

▲活動と信仰　女子と雖も生存して居る以上は、假令ば下女となり、敎師となり學生となり、主婦となる等、總て職業の如何、身分の高下に拘はらず、各々人權を認めたると同時に、世の爲め人の爲めになすべき事と信じたる時は、世評を意に介しては居られません、止むに止まれぬ熱情から始めて眞の活動が出るものであります、故に遠慮をして居るのは、未だ信仰が足りないからであります。

▲女子と社會　國民の半ばを占めて居る女子は、社會に對して決して無責任なものではありません、殊に今後の日本は女子が世界に紹介さるべき時でありますから、諸外國人に讓らず、社會人類の爲めに盡すべき大なる責任があります、腕力の事と違つて思想界の働きは、優しき女子の手に成ることが甚だ多いのでありますから、女子であるからと云つて遠慮をせず、各々主義の爲めに働くのは、社會に對する女子の責任であります。

▲高尙な感情　多くの日本女子中には、同情の涙を有する方も澤山ありませう、また社會の進歩を計る爲めに、非常なる力を盡して見たいと考へつゝある方もありませう、燃ゆるが如き高尙なる女子の感情より迸り出づる活動は、男子の夫れと相俟つて、實に尊むべく重んずべき、社會の必要物であります。

▲積極の方面　私が唯今女子の信仰に就いて申上げますに方り、愛國婦人會の會員諸姉に希望致しますことは、今後この會を總ての方面に向つて、遠慮なく活動させて戴きたいのであります、今後我が日本は國威の發揚と共に、ます／＼積極の方面にのみ向つて進みますから、女子の活動が是れに伴ひませんと、外部ばかりは進歩しましても、內容が更らに進歩致しません、斯うなると眞の文明國たることは出來ないのであります。

▲現時の社會　即ち斯かる場合に於きましては、日本婦人の團體中、最も多くの會員を有する愛國婦人會が卒先して、各方面に遠慮なく發展活動しましたなら、總ての改良進歩を見ることが出來ると思ひます、而して諸姉の手を待つ問題はと云ひますれば、先づ家庭の改良を始めとして、男女學生の風俄、奢侈の風俗を矯正して行くのは勿論のこと病める者、饑えたる者、憂に沈める者等に同情を寄せて、慰め且つ勵つて救ふと云ふことが重なることとて、其他算へ立つれば、今の日本の社會に於ては、女子の手を待つもの決して少なくないのであります。

▲清泉の湧出　故に會員諸姉が道義の觀念を深く養ひ、堅き信仰と共に是れを實行して下すつたならば、社會の腐敗も、國家の不健全も、容易に改善して行くことが出來ると信じます、會員諸姉のうちには、才學共に秀でたる方、愛情に富ませらるゝ方が澤山に居られるのでありますから、何うかこの清き盛んなる泉から、美しき活動の湧き出でんとを深く、深く希望して止まぬ次第であります。

◎十分談片

◉男爵清浦奎吾氏　近頃閑になつたので箱根の溫泉に入浴したが大層景色が佳いので山縣侯爵に來遊を勸めた處が侯爵も是非來ると云ふ返事であつた處が翌日大雪が降つたので侯が來ないで手紙が來た其手紙の末に左の歌があつたから自分は返しに詩を作つて送つた

箱根山明けば行かんと思ひ寢の
　夢路も絶へてつもる雪かな

玉樹銀崖一碧寒
雪中山水奇觀饒
欲迎華客共銀酌
有約不來空倚欄

◉元良博士母堂　當今の女子は皆な羽織を着被布を着て居りますが昔は斯んな風ではありませんでした平常には着て居ても儀式の席へは着て參りません女子が羽織を着て儀式の席へ出るのは非禮としてありました夫れが唯今では學校の卒業證書授與の式場へも着て出るものがあるやうになりました慥か明治五年であつたと思ひます、天皇陛下が某所へ行幸されるに就いて歡迎の女生徒に羽織を着てはならぬと云ふことを其の監督敎育の任にある人から達したことがありましたが矢張り斯う云ふ儀式の場所へは昔のやうに羽織被布を着て出ないやうにするのが宜しいと思ひます男子には男子の服裝あり女子には女子の服裝があるのでありますから女子が男子同樣に儀式の場所へ出るに羽織を着ると云ふのは根本に於て間違つた風俗と云はねばなりませぬ

◉陸軍大將兒玉源太郎氏　此度の戰爭で何師團は弱いとか何師團は強いとか世間で評判する者もあるが決してそんなものでない若し弱い師團があれば其師團長たるものが弱いのであつて師團長を替れば強い師團になるのである之れと同じやうに一家が治まらぬと云ふ事は家族が惡いのでなく主婦たるものが惡いのである一家の興廢は實に主婦の手腕一つにある

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

小説

癈兵の妻

武田櫻桃

良人は始終口癖のやうにかう云ふのであつた、村の人を怨み、故郷を憎むの情に堪え得られぬのであらうか。

『何故かう村の人達は自分に對して冷たいのだらう、自分が凱旋の當時には、やれあゝ云ふ勇士を出したのは村の名譽だとか、やれ死なずに歸つたのはまツたく神樣のお惠みだとか、餘計な寄合までして、旗を出せの、提燈を下げろのと、村中大騷ぎをやつて置きながら、今となると、それはほんの一時の醉興で、かく云ふ峯岸三郎は村の秩序を紊す者だと云ふ、此の村を去れとまで云ふ、自分は決して村の者の爲めに闘つたのではない、日本帝國の爲めに戰つて、名譽ある癈兵となつたのだ、自分の留守に田地も失くした、僅かばかりの家財も賣つたが、未だ村の者から一文半錢の合力は乞はぬ筈だ、成程自分は雙手を戰場へ遺て來た、小作も出來ぬ、蠶の世話すら六ケ敷い、村の者から考へたら、或は此先き村の厄介物と、邪魔になるに相違ない、村の厄介者！自分は既に肉體の自由を殺いて居る身ではあるが、未だ精神は不具てない、手こそない、口がある、頭がある、何の村のやつ等の世話にならうぞ！』

けれども、さうは行かぬので、現に磯子は村の人の世話になつた。夫の出征中、それは田地を賣らねばならぬ羽目にもなつた、家財を拂ふ仕義にもなつたが、村の人の心切に漸く過して來たのであつた。今日此頃の村の模樣では、夫の無念も道理てあるが、磯子の擔つた村の恩も尠くはない、其上夫は口がある、頭があるとは云ふやうなものゝ、小學校を卒業したと云ふばかりの夫の學問で、此切辛い世が過されやう筈もない、村の人にも可愛がられて、何なりと仕事が出來れば磯子は磯子で内職して、食べるに困ると云ふやうな目は見せまいもの、三郎にあの氣性があるばかりに、村の人からも、何となく煙たがられて、村長樣までが、『あんな剛慢な男はない、それは功もしたらうが、あゝ剛情では世話のし甲斐がない』とまで云はれたさうな、夫が惡いのか、村の人が冷たいのか、此先き什麼したものであらう！

沙河會戰に雙手を喪つて、後送された歩兵一等卒峯岸三郎の妻磯子は有繫に想ひ惑はざるを得ぬのであつた。系繰車の手をとめて、霎らく胸に兩手を抱き、盡きぬ懊惱に氣も遠く、物の氣あひに氣も注かぬ。

『磯さん！　大事ぢや！』

と喧ましう、裏の長次が戸を叩く、夢から醒めた磯子の耳へ、破れよとばかり響くはこれ！

『村は火事ぢや、西北の風ぢやてな、村中燒けると云ふ噂ぢや！』

曳いた戸の隙から洩れる火の光り、眞黒の空を燻して物凄う、長者林に撞く鐘は亂れてこゝへ聞えるのだ。

『長さん、家のは居ないのよ、什麼したらいゝでせう、お願だから片づけて頂戴よ』

氣も轉倒したのであらう、只おろ〳〵と身を悶いて裸足のまゝに戸外の方、はたとばかりに出會頭、

『おう、貴郎、火事ですよ、早く〳〵』

と息も切れ〳〵、三郎の顏は凄かつた。

『えゝア、冷たい村への見せしめだ、口ですつた燧木の火が、あれ〳〵、もうこゝまでやつて來よるわさ』

さてはとばかり氣はそゞろ、磯子は彈と三郎の便りない袂を摑んだ。聲震はせて、

『貴郎、まア、飛んでもない、この先き什麼する積りなの、儂は……』

とばかり涙を咽んて、近くに迫る火の手を瞻た。

『はゝゝゝ、面白いやうに燃えるわさ』

轉がるやうに一散走り、三郎は驅け出した。磯子も今は夢中である、跡を追ふて來て見ると、村長の家の棟は今落ちた。納戸から吹く焰の色、紅蓮の散るにも似て無慘や、荐りなく鳴る鐘の響き。

『これまでだ、磯！　覺悟しろ！』

眞先きかけて火の中へ！　磯子はひたと地に轉んだ。一村烏有に歸し去つて、罪は勇士の骨に殘つた。磯子は其後什麼したゞらう！

（完）

◎女流叢談

三浦千畝

（五）淺野長矩夫人の貞烈

赤穗侯淺野長矩の夫人は、同族淺野長治の女。瑤泉院と號す。赤穗侯怨を報ずるの日、侯の弟長廣、邸に走りて變を夫人に告ぐ。夫人人をして迎へしめ、仇人の誰なりや死生如何を問ふ。長廣曰く、知らざるなり、唯閣老命あり、長廣をして邸に送り衆人の騷擾を禁ぜしむ、是を以て來ると。夫人曰く、此何謂ぞや、兄死し、之が弟たる者、仇人の存亡を知らず、己れ閣老の爲に騷擾を禁ずと曰ふ、此何謂ぞやと。卒に長廣と絶つ。左右をして冗雜の具を收めしめ、訖て曰く、我が爲に小刀を取り來れと、侍女小刀を進む。夫人曰く、汝急に吾髻を斷てと、侍女頻に之を制す、夫人聽かず。乃ち斷つ。夫人初め變を聞きしより、舉措沈靜、平日に異らず。出てゝ輿に就くに及び、哀慟勝へず。殆ど傍人を動かす、遂に生家に依り一室に閑居し、之を久うして出てず。人傳へて美談と爲す。

（六）足利義政夫人と應仁の大亂

足利八代將軍義政の夫人は、裏松贈内大臣重政の女。名を富姫と稱す。國色あり、初め義政政事に倦み、職を弟義視に讓りて隱す。後幾ばくもなくして夫人男子を產む。是に於て夫人義視を斥けて己の子を立てんと欲し、令色巧言頻に義政を勸す。義政亦其早く義視を立てたるを悔い、意廢立を欲すれども、唯義視の執事細川勝元に憚り、これを斷行すること能はず。夫人意らく、權勢勝元の上にあるもの、以て宜く一子を託すべしと。乃ち密に書を山名宗全に與へ、切に其扶翼を請ふ。宗全亦常に勝元の權勢を疾むもの、奇貨措く可しと、直にその寄託を諾す。これぞ應仁の戰亂とて、天下麻の如く亂れ、群雄蜂の如く起り、幾萬の生靈を屠りて骨の山を築き、血の川を流すといふ、我歴史上の一大慘劇を演出したる抑もの根源、哲婦國を傾くるとはこれをや言ふらんと、いとおそろし。

（七）足利義政嬖妾某氏の竄貶

義政の嬖妾某氏、（今その家系を詳にせず）陰惡を以て海外の隱島に竄貶せられしこと、碧山日錄長祿三年の條に見ゆ。曰く、『春公余に語て曰く、大相公（義政）之嬖妾某氏、曾て室家之柄を司り、其氣勢焰々、近く可からず、其所爲殆ど大臣の執事者の如し、而して貪戾にして民を惱す。又妬忌する所多し、竟に陰事を爲して其室家の夫人に殃す。其事遂に發す。相公大に怒り、大夫持淸（京極）に命じて之を海外の隱島に竄貶せしむ、彼若し家室の權を司り、年を累ね歲を積むことと有らば、其禍天下に及ぶべきなり。而して今貶所にあり、天の罰なりと。予曰く、古史に曰く、婦人外事に預る、國家の福に非ずと。相公此蒼生の欲する所に付す。天下安全の端なり。以て喜ぶべし』（原漢文）

（八）阿南但馬守女の壯烈

頃は群雄覇を競ふ足利の季世、九州にては薩摩の島津、當時强大にして比隣に敵なく、數々兵を肥豐の間に放ちて、盛んに侵略を試む。此時豐後國大野郡に、阿南但馬守と稱する鄕士あり。島津家久自ら兵を率ゐて來ると聞き、堀中務、鶴原因幡守等の鄕士と議して城を構へ兵を集め、各防戰に力む。而かも衆寡敵せず、城兵漸く減じ、阿南亦身に數創を被り、起つこと能はず。但馬守に一女あり。時に年十七、心操優にして容貌艶なり、父の手を握り泣て曰く、徒に生きて辱を受く、若かず死して父に地下に從はんにはと、蹶然起て父の血刀を取り、單身城を出て、敵陣を驅け、奮鬪して遂に數騎を倒し、靜に小丘に上り、口に刀鋒を含みて丘下に顚落し、自ら吭を貫きて死す。これを看る者、哀惜嘆賞せざるなし。

——憐憫は特に人の財產なり——

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

家政

◎日本民族に適合せる新家庭を作れ

評議員　三輪田眞佐子

▲國體と家庭　日本民族に適合したる家庭と云へば、如何なる家庭制度を取つたら宜いか、夫れには種々の議論もあるであらうが、私は從來の日本の家庭制度と、歐洲のそれとを調和して、日本民族に適合したる新家庭を作ると云ふことが、日本の國體にとりて甚だ必要なることであると思ふて居ります。

▲老人と若者　老人には老人の趣味嗜好があり、若い者には若い者の趣味嗜好がある、故に年齢の相違するものが一つ家庭に生活すると、趣味の異なる點からして不快を感ずることが多い、と云ふ人がありますが、私の考へては決して其樣なことはないと信じて居ります。

▲趣味の單調　假令ば隱居制の如くに老人ばかりが家庭を作つたとしたら、一家には花もなく、活氣もなく、甚だしき寂寞を感ずるものであります、また若い者―學生などばかりが家庭を作つたならば、一家は何時も活々して居りませうが、其の中に隱健なる空氣は見ることが出來ぬ、誠に單調なる家庭となつて了ひます。

▲極端と極端　斯樣に老人は老人、若い者は若い者と、同年輩者のみが片寄つて仕舞ふと、總て趣味が極端になりますから、慰安と云ふものは少しも得られません、何時も不愉快、何にか物足らぬやうな心地がして、快々として沒趣味な家庭に生活して行かねばならぬ道理となる、極端と極端、中庸を得ない家庭に何うして和かな春風の吹かう筈がありません。

▲老若の同棲　此に於て、老人も、若い者も、男も、女も共同に生活することが甚だ多趣味なことになつて來ます、假令ば老人のみで火桶を擁へて、所謂老人臭い活氣のない話をして居た人も、子供が椽側へ出た、轉ぶと危險いと云つて立つて傅をするやうになる、一日端然と火桶の前に据つて居るよりは、少しづゝでも運動が自然に出來る、老人に取つて是れが如何に健康の助けになるか知れません、また邪氣のない子供の遊戲を見て、笑ふやうなことも澤山に出來て來ます、さうして子供と同じやうな氣になつて、自然若返へるやうに思はれます。

▲經驗と智識　一口に老人だからと若い者は云ひますが、若い者に新らしき智識があれば、老人もまた若い者の學問では覺へることの出來ぬ有益な經驗を澤山に持つて居ります、故に若い者は老人から諸種の經驗談を聞き、以て行路の標識としますと同時に、老人は若い者より新らしき智識を得て時勢に後れない、活氣を常に添へて行くことが出來ます、老人と若い者とが經驗と智識の交換、如何にも美くしいことではありませんか、斯くてこゝに中和を得た完全なる家庭は作り出だされるのであります。

▲別居の廢止　日本には隱居と云つて、其の子が成人すると、父母は別居して仕舞ふ制が行はれて居りますが、是れは斷じて廢止したいものであります、勿論親子の間柄であると云つても、中には種々の事情の爲めに別居をしなければならぬのもありませう、是れらは事情の爲めに致方がないとしても、何んの事情もないに、モー悴に嫁を迎へたから安心しました、私達は隱居をしますと云ふて別居するやうなことは、勉めて廢止するやうに仕度いものであります。

▲趣味の研究　眞に家庭の忽にすべからざるを思ひ、眞に家庭の趣味を研究しやうと云ふものは、能く老若の關係を考へ、親子夫婦の同棲より生じ來たる愉快、且は新趣味を見出すことに勉めねばならぬと思ひます。

▲刻下の急務　春風吹き絶えず、四時櫻花の爛熳を見るが如き家庭を作くると云ふことは、今日甚だ必要なることであると思ひます、故にこの主義をして廣く江湖に紹介し、且は實行されんことを望んで止まぬ次第であります。

◎虚榮の心を去れ

評議員　有島幸子

▲誰にもある　男子と云はず女子と云はず、多少虚榮心のない者はありませんが、殊に婦人にはこの弊が多いやうでありますす、社會の進歩と共に婦人の活動すべき範圍が廣まつて參るのは寔に結構で御座いますが、この範圍が廣まるに伴れて、各方面に婦人の虚榮心を發達させ、滿足さするの材料が殖へて參るものでありますから、志あるものはこの邊に注意を致しませんと、婦人の勢力が發展されると共に社會に惡弊を遺すことになります。

▲好個の實例　この惡弊風の社會に吹き荒んで居ると云ふ好個の實例は、先年教育社會に起つた賄賂事件て判ります、是れは皆な虚榮心に驅られて、身分不相應なことをして世間に誇らんとした結果であります、教育社會に於てすら猶ほこの弊あり、他は推して知るべしてあります、實に慨かはしい次第ではありませんか。

▲借金しても　風説に依りますと、借金をして美服を作り、さうして種々の會合へ御出席になる奥樣があるさうですが、美服を甚だ要を得ないことてあります、美服を着たからとて、其人に堅實の心がなかつたならば、何物をも社會に貢獻することが出來ません、美服は歌舞の場に登る人には必要てありませうが、社會の爲めに盡さうと云ふ人には不必要なことてあります、諺ずる所、身分不相應なことをしないが宜しいのであります。

▲良人の誤解　また奥樣に綺麗を飾らせ、贅澤をさせて、そして自らの威權を添へ示さうとする御良人もあるさうですが、是れも間違つた致し方てあると思ひます、要するに是等は奥樣の虚榮心をして、益々發達させるやうなものであります、一家の主婦たる大責任を帶びて居るものに虚榮心を養はさせて、夫れて完全なる家政の整理が出來ませうか、圓滿なる家庭が作つて行かれませうか。

▲娘心と親心　婦人は若い方ほど餘計に虚榮心があるやうであります、假令ば學校に入るにしましても、婦人として心得べき丈けのことを習ふのなれば、甲の學校乙の學校と擇り好みをする必要は更らにない、然るに少しても世間に知られた學校に入りたがる、さうして學生には有るまじき贅澤をしたがります、また親御は親御で娘の云ふなりになります、是れは親の情として左樣あるべき筈でありますが、この吾子は可愛い〳〵が過ぎましては、反つて娘の不爲めとなることが多くありますから、能く〳〵此邊にも注意を致さなければなりません。

▲教育が肝腎　唯さへ起り易い虚榮心を學生時代から養つては、到底完全なる一家の主婦とはなれません、一端染み込んだ虚榮心を取除かうとしましても、夫れは容易なことでは出來ません、惡事には染み易いか、善事には慣れ悪いものであります、故に學生時代からこの虚榮心に迷はぬやう、而して將來有爲の婦人となることに心懸けねばなりません、三ツ兒の魂百歳までとやら、少女時代の教育が一番大切てあると信じます。

◎「あんよ」にお菓子

久津見蕨村

◉『是れは坊のですよ』と姉さまがお菓子をお上げになりました。『ア、「あんよ」にもやるよ』と其子供衆は其お菓子を自分てに我が足に摺付けました。と申しましたら可笑いことだ。自分の足にお菓子を與るなんど、馬鹿な兒もあるものとおつしやる方もありませう。

◉がこれは實際ありました事て、又決して可笑いことてはありません。實に之は子供が他を愛します心の發芽だ時なのてあります。之れと同じことて乳房に物を與ると申す兒が幾らもあります。是も亦他愛心の始りてあります。

◉斯う云ふ時に『オヤをかしな兒だ』とお笑ひになるのは、少し考へものです。『ア、おやり〳〵乳房も「あんよ」も可愛から澤山與るが宜いよ』と云つて頂きたいものです。其物事の辨別の付かない所は如何にも可笑くはありますが、夫れは頑是のない時ですから咎めるには及びません。何んにせい。物を他に與へやうと云ふ他愛の心の發芽だのは可愛ではありませんか、嬉しいてはございませんか。

◉元來子供は動もしますと非常な利己心を持つて困るのです。『これも坊のだ。あれも坊のだ』と家中の物を皆んな自分の物にして仕舞ひたがるやうになります。之を其儘に増長させましては、行末どんな利慾に耽ける人になるか知れません。ですから極く少さな時から、他を愛する心を養はなくては不可せん。

◉之れには「あんよ」にお菓子の時に發芽だ他愛心を摘切らぬやうにするが肝腎てございます。此時に『オヤをかしな兒だ』と唯笑つて仕舞ふのは、其他愛心の芽を斷ちます言葉の斧です。どうか斯う云ふ場合に其斧を振はないて、『ア、おやりおやり善い兒だね』と子供の他愛心を養ふ褒め言葉の肥料を蒔いて頂きたい。

◉何に自身の肢體と他人とを混同にする間違ひは成長するに從ひ、『己』と云ふ意識が明になりまして、自然に失せて仕舞ゐます。そして其培養た他愛心が獨り遺つて仁愛慈悲の心となります。誠に微々のことのやうてすが、斯うてございますから、「あんよ」にお菓子は育兒上中々の大問題てあります。

婦人の勢力の波及する所は啻家庭に止まらず到處に其の勢力を認めらるゝなり、男子は如何なる忙しき時も亦如何なる煩はしき時も、絶へず婦人の感化を受くるもの也

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人會記事

●理事會日取　二月中の理事會日取りは左の如し

二月十四日(第二水曜日午後二時)

●評議員會日取　二月中の評議員會例會日取は變更して左の日時に開會す

二月十四日(第二水曜日午後二時)

●韓國支部長等の囑托　今回韓國に本會支部を設置し去月十九日總裁殿下より韓國統監府總務長官鶴原定吉氏を同支部顧問に夫人鶴原誠子氏を同支部長に囑托せられ兩氏とも直ちに受任せられたり

●函館支部の功績　一昨年以來戰局に關する功績取調方につき昨年十一月九日付愛甲第五八號を以て各支部へ通牒を發したることは既記の如くなるが右に對し函館支部よりの回答は左の如し

戰局に關する功績調査表
自明治三十七年二月至仝三十八年十二月

(一)出征軍隊を送迎し茶菓等を供給せし度數　六十三度
內拾四度茶菓供給
價額金八十八圓拾三錢
出張せし職會員人員　一千八百九十人

(二)出征軍隊へ恤兵の爲め寄贈せし物品種類　貳種
慰問袋　貳千六百九個
毛布　二枚
價額金七百九拾圓八拾錢

(三)慰問せし出征軍人家族の戶數　二千九百八戶
出張せし職會員人員　五千八百十六人

(四)傷病兵又は癈兵を慰問せし度數　十六度
內九度慰問品寄贈
價額金九拾五圓九拾八錢
出張せし職會員人員　四十二人

(五)戰病死者の會葬せし度數　七十八度
出張せし職會員人員　千百七十八人

(六)慰問せし戰病死者遺族の戶數　四百十戶
出張せし職會員人員　千二百三十人

(七)戰病死者遺族慰藉　一度
價額金參拾貳圓五拾三錢
出張せし職會員人員　四十五人
此項は明治三十八年五月六日函館招魂祭執行の際遺族を招待し折詰及茶菓を供せり

(八)海陸軍人休憩所設置　四十日間
價額金三拾壹圓三拾二錢五厘
出張せし職會員人員　二百人
此項は明治三十八年八月十二日より同九月二十日まで區內末廣町八十二番地へ設置毎日午前八時より午後六時まで一般軍人に茶菓を供し慰藉せり

●古莊氏の寄附　前三重縣知事古莊嘉門氏夫人志佳子氏は三重支部長として本會の爲めに最も盡力せられ自費を以て會員增募其他に盡されたる功績實に尠なからざりしが怨むべし天この人に壽をかさず舊臘白玉樓中の人となりしは惜しみても猶ほ餘りあることにこそ、右に就き仝氏生前の素志に基き今回左の書面に添へて金壹百五拾圓を寄附せられたり

謹啓　荊妻志佳子舊臘死去の際辱交各位より香花料等の惠與を受候に付一々返禮可致筈の所當人生前の素志に基き右の返禮を廢止し諸費用を擧て愛國婦人會本部に寄附致度候間乍些少別封金額御領收被成下度願上候　敬具

明治三十九年一月二十七日　古莊嘉門

愛國婦人會々長
公爵夫人　岩倉久子殿

●圖書の寄附　評議員鳩山春子氏は日露戰役寫眞帖、征露寫眞畫帖、社會字林、現今日本名家列傳、明治十二傑、早稻田大學開校紀念錄等の圖書を寄附せられたり本部圖書設備に賛同の方は冊數書籍の種類を論ぜず御寄附ありたし

●鶴原顧問の出發　今回韓國支部顧問を囑托したる同國統監府總務長官鶴原定吉氏去月二十三日新橋發列車渡韓の途に就かれしを以て岩倉會長代理及び評議員伊集院繁子同古市幸子の兩氏は同驛まで見送られたり

◎各地支部狀況

●大分支部　同支部大分郡幹事部內判田村にては去月三日同村會員の發企にて判田總會を擧行し會員總代として幹事柴尾ライ子氏開會の辭を述べ次に支部長代理評議員安田麗子氏總裁殿下の御諭旨を奉讀し次に幹事部長代理委員河野織江子氏式辭を朗讀し次に來賓の祝辭、安田評議員の有益なる談話等ありて式を了へ夫れより同村凱旋軍人歡迎會を開き軍人七十餘名並に遺家族等を招待して摸擬園遊會を催し一同歡を盡して散會したり此日會するもの貳百數拾名の多きに及び頗る盛會を極めたり

●函館支部　同支部にては昨年十一月七日より同十九日に至るまで後備步兵第二十五聯隊、同二十八聯隊並に第十五師團馬廠等凱旋に付き職員並に會員は着港上陸毎に歡迎し又出發の際は停車場構內に間口四間奥行三間の小屋掛を設け職員會員並に女學校生徒等にて茶菓の饗應を爲し各軍人に紙製の聯隊小旗(支部名入)を寄贈したるに何れも滿足の意を表し特に輸送指揮官及び馬廠長並に函館區長等より謝狀を送られたり

●德島支部　同支部にては去月七日德島公園內潑翠閣に於て篤志看護婦人會員と聯合して新年互禮會を開催し總裁殿下の御寫眞を安置して一同禮拜を爲し終つて告森支部副長の挨拶、來賓古川市次郎氏の女子に對する所感等の說話あり夫れより祝盃を擧げ兩陛下並に本會の萬歲を三唱して散會したるが來會者百拾五名あり餘興等ありて頗る盛會なりき

●兵庫支部　同支部多可郡幹事部にては郡內出征軍人遺家族慰問の目的を以て有志會員並に篤志婦人を勸誘して慰問品を集めたるに現金又は米麥等にて寄贈せし高約金百五拾圓に達したるより今回本會徽章に醵金の趣旨を染め拔きたる手拭二筋づゝを寄贈したり

●香川支部　同支部三豐郡幹事部にては去月三十三十一の兩日觀音寺町三架橋頭松壽閣に於て傷病兵士慰問及び出征軍人遺家族慰藉の目的を以て音樂會を開催し一般聽衆者よりは金拾錢の入場料を徵し癈兵遺族等は無料にて優待せしが入場者多くなか〳〵の盛會なりきと

●京都支部　同支部にては去月十三日乃木第三軍司令官一行、同十六日野津第四軍司令官一行通過の度毎に職員並に會員有志者數十名一行を京都停車場に歡迎し且つ一行休憩中乃木、野津の兩將軍へは果實盛籠一個づゝを贈呈したり

●山口支部　佐波郡南部幹事部にては去月三日防府町松崎小學校に於て同志會を開催したり會するもの毛利公爵夫人、楫取男爵夫人を始め幹事會員並に私立裁縫學校生徒五百餘名にして中山師範學校長其他二三氏の有益なる說話ありたり

●和歌山支部　同支部內和歌山市に於ける十二月末日現在會員は六百九十四人にして前月の六百七十三に對する二十一人の增加なり

●滋賀支部　同支部にては去月十一日第二軍司令部凱旋通過につき職員並に會員一行を馬場驛に歡迎し支部長鈴木鎌子氏より美麗なる花環を梨本宮殿下及び奥大將に贈呈したり

●宮城支部　同支部にては豫て軍人遺族中貧困者の爲め防寒衣を同志に募りたるところ締切期日までに集まるもの千七百十三點に達したるよしにて此程遺族六百二十餘名に夫れ〳〵配與したりと

●福島支部　同支部會員諸氏は去月一二の兩日新年餅を通過軍隊に一人二個づゝ寄贈したるが第一日目は六回の通過にて三千六百十四個、第二日目は六回の通過にて三千七百七十六個なりしと

●東京支部　東京支部內京橋區幹事部に於ては來る十日より歌舞伎座に於て同座付の芝居を興行し其收益を遺族癈兵に贈與する計畫中なり

愛國婦人會々員數(明治三十八年十二月末日調)

支部名	特別會員數	通常會員數	合計	贊助員
臺灣	一、〇〇三	三、一三五	四、一三八	五、五四五
東京	五、五七二	一〇、一五〇	一五、七二二	五〇三
京都	二、〇四一	一三、一〇八	一五、一四九	三六〇
大阪	二、八六八	一〇、四四五	一三、三一三	一、〇一七
神奈川	一、三七〇	九、八九九	一一、二六九	二六二
兵庫	二、〇〇三	二二、七二一	二四、七二四	四六一
長崎	二、七四四	九、三七二	一二、一一六	五二
新潟	五九七	三、一二九	三、七二六	七〇一
埼玉	二九二	四、六〇三	四、八九五	三九四
群馬	一、一六〇	九、五六八	一〇、七二八	九九
千葉	九四九	七、四五八	八、四〇七	二六八
茨城	四七三	五、一七一	五、六四四	五三
栃木	一五九	一、〇八五	一、二四四	一四二
奈良	二八一	五、五七四	五、八五五	三一二
三重	三三五	一〇、〇三八	一〇、三七三	三四二
愛知	一、一三六	二二、六五一	二三、七八七	六三一
靜岡	三〇六	三、四一〇	三、七一六	六八
山梨	二七二	二、〇六二	二、三三四	一三四
滋賀	四三三	六、五八六	七、〇一九	二、七五四
岐阜	四七七	二、六〇九	三、〇八六	三七九
長野	四四一	三、二七四	三、七一五	五一一
宮城	一、四三四	九、四五四	一〇、八八八	七六九
福島	一、一一一	九、二五七	一〇、三六八	五二二
岩手	六二二	六、五〇九	七、一三一	二〇五
青森	一、〇三〇	六、五四八	七、五七八	二四〇
山形	八一弍	一六、八六九	一七、六八二	一四二
秋田	四四一	三、一五五	三、五九六	一、二四二
福井	七三六	五、六三三	六、三六九	九八七
石川	一、四五八	一六、〇〇〇	一七、四五八	七五〇
富山	七九二	一〇、五七六	一一、三六八	六一六
鳥取	一五八	一、八五八	二、〇一六	三六八
島根	二五四	三、四七八	三、七三二	四二九
岡山	一、〇一七	一九、〇五一	二〇、〇六八	三七三
廣島	一、三五七	九、七七二	一一、一二九	六九三
山口	八〇八	二六、四七五	二七、二八三	一、〇七二
和歌山	二五七	三、〇八九	三、三四六	三一〇
德島	二八三	五、三二一	五、六〇四	七二
香川	六七五	八、〇七九	八、七五四	三六一
愛媛	二五四	八、五二一	八、七七五	二三二
高知	二五六	六、四三五	六、六九一	六一四
福岡	二、〇九三	一四、一一四	一六、二〇七	九五四
大分	七五二	八、九四三	九、六九五	三九六
佐賀	六七八	四、二三九	四、九一七	一七〇
熊本	二、七一八	一六、二一七	一八、九三五	二、二九三
宮崎	二三五	四、四八二	四、七一七	四四六
鹿兒島	九六七	四、三四九	五、三一六	三四六
北海道	二、〇八二	八、七九〇	一〇、八七二	八〇八
沖繩	二五七	一、一五七	一、四一四	七六
函館	四九六	一、五九二	二、〇八八	二三八
海外	六二八	一、九七八	二、六〇六	二、六二四
合計	四九、五七四	四〇八、一八九	四五七、七六三	三三、三三七

備考　十二月末日調未着ノ支部會員は最近ノ分ニ依ル

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

雜報

◎兩內親王殿下の御避寒　常宮周宮兩內親王殿下には出征將士の勞苦に御心を傾けさせられ昨年は御避寒御見合せとなりしが歲革一轉して目出度き平和の春を迎へさせ給ひしより去月二十六日午前九時新橋發の汽車にて小田原の御用邸へ御避寒遊ばされたり、常宮殿下には取つて十九歲、周宮殿下には十七歲とならせ給ひ御聰明の天資月日と共に光りを增し御學業の程も優劣なく進ませ給ふに御姉妹中の御睦しさ仰ぎ奉るも羨ましき程なりと只々畏しと稱へ奉るべし、日常の御振舞規則正しく渡らせらるゝは申すまでもなく就中御學業に勵み給ふ事は數ば傳へ奉れる如し然れば御避寒中も課業を忽せにせらるゝ例あらず各課受持の敎師を御用邸に召させられ繪畫音樂の趣深き業を御熱心に學ばせ給ふと漏れ承れり

◎中山一位局母堂　中山一位局の御生母愛子刀自は此程逝去されたるが九十歲と云ふ世にも稀なる高齡を保たれたり刀自は故從一位中山忠能氏の夫人にして松浦家より嫁せられたる方なるが畏れ多くも今上陛下御幼年の頃京都に在しましし中山大納言忠能卿の御邸に御養育仰付けられしより刀自は專心一意皇室に對して忠誠を盡されたりと云ふ其御緣故もあり長き邊りの思召も推察し奉るに餘りありと云ふ夫れかあらぬか兩陛下よりは錦小路侍從を御使ひとして御弔問あり且眞榊を賜り又御料理の御下賜もあり葬儀は去る卅一日嚴肅に施行せらる

◎東亞報德會　同會は恰も弘道會の如く風敎の維持と社會の改良とを目的として去る三十四年一月設立せられたるものにして會員は改良すべき事項を每月一二項づゝ決議し實踐しつゝあるよしなるが今日にては其事項積んで四十九項に達し其條項は世評の如何に惑ず會員は誓つて實踐躬行する主旨を以て每月一回常集會を開き高德碩學の講話を開く筈にて會費とては別に取立ず事務所は鹿兒島市山下町花田仲之助方に置き何人と雖ども入會を許す同會五個の綱領は左の如し

一　四恩報德中先づ目下最も必要なる親恩報謝の孝德より涵養せんとす

一　孝德涵養は虛名を避け專ら至誠と報勤とに勉めん事を要す

一　神明佛陀聖賢の敎は勿論一切の道德を講究すと雖ども　聖勅に悖れる敎法は採用せず

一　本會は家庭の和睦より漸次親戚朋友鄉黨に和親を厚うすることを謀らんとす

一　養德學項中目下最も緊要なる一二件づゝを限り每會々員中相規して實踐躬行せんとす

同會は今後益々擴張の由なるが吾「愛國婦人」は同會の趣旨を賛成し時々紙面の許す限り其實踐躬行の狀況を報導す

◎癈兵院設立計畫　政府は愈々癈兵院設立するの計畫ありと見え此程豫算委員總會の席上に於て代議士淺羽靖氏より癈兵院設置法案の有無を質問せし處寺內大臣の答辯に曰く癈兵院設置法案は追て提出す可く尙戰傷者優遇上恩給金の一部を改正し恩給額を增率す可しと答辯せり其後新聞は下の雜報を掲げたり「陸軍省は今回癈兵院設立法案を議會に提出する趣なるが元來癈兵院は歐洲に於て二百年前即ち傭兵制度の行はれたる當時に創設されたるものにして徵兵制度實施され從つて恩給制度の制定されたる今日に在りては負傷者は大部分恩給に依りて生活し得べく癈兵院には恩給に依りて生活し得ざるもの丶みを收容すると爲るべければ其員數も比較的少かるべき見込なり」

◎中央慈善會　去る三十六年大阪に大博覽會開催されし當時同地に集まりし慈善家等は夙に中央慈善會を起さんとの計畫あり東京に於ける慈善諸團體及社會事業の研究者に交涉し其後有志家に依て成立の運びとなりしも戰爭の爲め時期を待ちをりし處今回戰爭も終結したれば愈々公然中央慈善會を組織すべく兩三日中に集會する筈なりと云ふ尙ほ此會の人々は慈善事業なるものに就ては寄附勸進等の所謂慈善家的手段を絕體的に否認し歐洲に所謂勞働紹介と云ふが如きものを勃興せしめんと欲するものなる由

◎東洋女學校生徒募集　小石川なる東洋女學校にては來る四月の新學年に際し第五年級以下各級生徒合計百五拾名を募集する由にて入學志願者は三月二十五日限り願書を差出すべく監督舍へ入舍を望む者は同十五日迄に願出づべしとのとなり尙ほ同校は德育に重きを置き修身科の外毎月第一土曜日に校長村上博士其他名士の修身談ある外今學年よりは科外として和歌及び挿花を敎授し和歌は文學士尾上柴舟氏擔任する筈なり又た同校は創立日淺きも眞面目の評あり男爵岩崎久彌氏は其の趣旨を賛して此程金壹千圓を同校維持費として寄附したりと

◎府立高等女學校の生徒募集　今般府立の三高等女學校は左記の通生徒を募集す

募集人員　第一高女一學年百二十名　第二高女同四十八名　第三高女同百二十名

出願期日　第一は三月二十五日限　第二は同廿日限　第三は同二十四日限

試驗期日　第一、第二は四月一日二日　第三は三月三十日三十一日

▲印度の少年結婚者

印度に於て未丁年者結婚の盛んなることは普ねく世の知る處なるが近年此弊習益々甚しく最近の調査に依れば

五歲以下
男子　一千八百七十三萬五千七百七十四人
女子　一千九百二十六萬八千九百九十七人

の內
男子　十二萬七千四百八十六人
女子　二十六萬二千九百九十人

は既婚者なりと實に驚くべき事にして尙ほ五歲以上十五歲以下の既婚者左の如し

五歲以上十歲以下
男子　七十九萬六千十四人
女子　二百十二萬五千五百四十人

十歲以上十五歲以下
男子　二百六十六萬二百一人
女子　六百八十六萬六百三十人

なり而して同國にては女子に再婚を禁ぜられあるを以て五歲以下の未亡人は實に一萬九千四百八十七人十歲以下同十一萬三千二百八十五人十五歲以下同三十九萬一千百四十七人の多きに達せり斯くの如きは人道の上よりして捨て置くべからざる所なりとて英國にては此惡習を打破せんが爲め近頃種々の計畫ありと云ふ

◎米國大統領令孃結婚　先年我國へも來遊せし米國大統領令孃ヴエルト孃は上院議員ロングウヲース氏と愈々結婚する事となりしが歐洲諸列國より祝賀の爲め物品を送らんとするもの多く華盛頓電報は左の如く報せり

歐洲の諸列國がローゼヴエルド令孃の結婚を祝せん爲め競ふて物品を贈らんとするの計畫に則りキユーバ共和國の議會は今般同一の費途に向つて二萬五千弗の臨時支出を可決せり物品購入の爲め特に委員を選定せり贈物の多くは寶石類若くは日用具なる可しと尙ほローゼヴエルト令孃及び上院議員ロングウヲース氏の結婚式は二月中旬華盛頓の大統領官邸に於て擧行せらる可く華盛頓の大僧正ヘンリー、エーツ、サツテリス氏之を司り新夫婦は直に倫敦に向つて旅行を試み米國大使リード氏の賓客として暫時同地に滯在の豫定なり

◎櫻美婦人會　麴町區永田町二丁目三十番地に本部を設け神田區仲猿樂町六番地に造花刺繡の二部を有する櫻美婦人會にては今回更に各科に會員を募集するに就て上記の手藝に熟達せざるものには料金を要せずして其の製作法を敎授し同時に和服仕立物の集配員を置き遠近にかゝはらず同所へ通告あらば件の集配員（婦人）を出して需めに應ずべしと云ふ

◎戴澤殿下と婦人會　東洋婦人會にては舊臘中淸藤秋子等を淸國に特派したる緣故あるを以て去月三十日同會々長鍋島侯爵夫人邸に目下來朝中なる戴澤殿下を招待して晩餐會を開催したり

◎女子之友音樂會　雜誌『女子之友』は創業十週年の祝意を表する爲め去る三十日午後零時より神田橋外和强學堂に於て音樂會を開きたるが右の收益を以て女子修學誘掖會と云へるを創立し地方より遊學の女生徒を寄宿せしめ是れが監督其他の便利を圖る筈なりと云ふ

◎日本音樂學校閉鎖問題　男女混合敎授のことより閉鎖云々の說を立てられし神田區錦町なる日本音樂學校は世上風說するが如きことなく校規に少しの改新を施し依然開校敎授する由

◎醫科大學と產婆　東京帝國大學醫科大學附屬病院產科學敎室なる產婆復習科を產婆養成所と心得る人多けれども同科は既に產婆の免許狀を有する者のみを每年十月入學せしめ翌年九月まで修業せしむるものにて免許狀を有せざる者は決して入學を許可せざるものなりと

◎閨秀畫家の留學　東京女子美術學校助敎師大塚絹子氏（二十）は昨年同校洋畫科を卒業し以來同校に敎鞭を執り居たるが繪畫及び圖案科專攻の目的を以て近々英國バーミンガム美術大學校へ入學の爲め東京を出發する筈なり

◎女學生の篤志　本鄉弓町なる女子美術學校にては日頃慈善箱なるものを設け生徒職員中より金品を集めては慈善の爲めに盡し居れるが今回の東北饑饉につき去月二十日以來一週間を限りて例の如く金品を集め既に金員のみにて三拾圓近く集められたるが更に期日より一週間を繰延べて醵金中とは感ずべし

◎『家庭と建築』　牛込區新小川町なる家庭と建築社より發行せる仝誌は田中綱吉氏の主宰する所にして滿紙有益の文字多く家庭必讀の好雜誌なり

家庭こよみ

▲自二月　五日
▲至二月十九日

▲行事▼　二月五日　釋迦涅槃會△同七日　初午△同十一日　紀元節△同十四日　愛國婦人會理事會　愛國婦人會評議員會△同十九日　二の午

▲日取▼　先勝（六日、十二日、十八日）友引（七日、十三日、十九日）先負（六日、十四日）佛滅（九日、十五日）大安（十日、十六日）赤口（五日、十一日、十七日）

▲料理▼　白魚△鯉△鮒△はぜ△たら△鯛△蝦△いか△たこ△牡蠣△蜆△雁△鴨△家鴨△菜△芹△若海苔△蜜柑△林檎△からすみ△鯖△ほしかれい△春菊△つくし△諸の薹△鶯菜など重なるもの

▲遊樂▼　雪見△梅見△遊獵

▲立春▼　二月四日より

▲日曜▼　二月七日、同十四日

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

短文披露

題「最も愛讀する書」

▲海暮の星　東京　浦月子

あれ二十歳ばかりの頃、或人より假名法語といへる厚き法語集をもらひて、暇ある毎に讀けるが、初の程は解けがたきふし多くて、大方は見泄らしつゝも、何となふ心ゆく心地して、讀みえらるゝ處をのみぞ幾度となふくりかへしぬ、やがて暮れ初し空に星を見いてつるやうに、かれ一つこれ一つと味あることを知りそめて、朝夕側を放たず、二つなき友とぞ思ひなりぬる、此の書の心を知り初めてより、論語といへる書物など見もて行に、おぼろげながら打ちほゝゑまるゝぞをかしきや、かたなりの淺き學びをもて打ちたどりたる、いかに片腹いたしとや人の思ふらむかし。

▲選者曰　學の道に志厚き人ならて如何て斯の如くなるを得んや

▲故人の聖訓　埼玉　水野淑子

妾は史傳の類を好み讀む中に、わきて師友とも思ひて愛讀するは、北山刀自の傳記をものせし書になむ、足る事を知れてふ敎は幼きより耳にせしが、自ら是を守るは難く、ともすれば憂に泣く事のみ多かりけり、刀自は心に染まぬ人を夫として、一度は悲みしが、飜然悟る所ありて又歎く事をせず、能く夫に仕へ家を治め、賢婦の名を世に擧げたり、この優しき心の中を思へば、我が不幸など歎ふるに足らずてふ勇氣の出てゝ、業はげむにも心地すがくしくなるなり、これを物せし下田先生のみ筆づかひ、また巧に面白うて、幾度讀むも飽く事を知らず、妾の如き學淺きものゝ、文學びの便となる事も多くて、またなきなつかしき書となむ覺えける。

▲選者曰　想餘りありて辭の到らぬ節見ゆれども可

▲又曰　大阪の富永才子、群馬の伏島たき子、山梨の蘆澤雪子の君を始めとして寄稿頗る多かりしも惜しい哉何れも愛讀の書名を逸せられたるを以て覺に入選するを得ざりき次回は今回に倍する金玉の文字多からんとを祈る

作歌披露

題「觀梅」

○手いけしてともしに見れは一しほのにほひくはゝる野路の梅か枝　北海道　西久子

○おりたちて梅さく園を見めくれはかをる袂に春風そふく　東京　浦月子

○手折りなはおきてにふれむ梅の花匂ひはかりをつとにしてまし　東京　長鹽錠子

○夕されは綾の袂に梅か香をこめつゝかへる人もありけり　茨城　綿引馨子

○うくひすの聲なつかしみとめくれはうれしくかをる梅のはつ花　東京　岡田春子

○梅か香を袖に深くも匂はせて家つとにせむ見ぬひとのため　函館　川崎富子

○はる風のかをるを花のしをりにて思はぬ里に梅見つるかな　靜岡　松岡須磨子

○うくひすの初音もかなとなかめけり袖さへ花のかをりするまて　京都　渡邊豊子

○春はまたさゆれと庭におりたちて梅見るをりそたのしかりける　愛知　山田靜子

○消えのこる雪かと見えて山の端の一むらしろく梅咲きにけり　新潟　三枝常子

○手植ゑせし梅の若木のはつ花をみいてし今朝そ嬉しかりけり　愛知　平松いと子

○梅見んと行きかふ人の袂にもかをりこめけり小向日のさと　靜岡　竹内幸子

○おもふどちこゝにつどひて團欒せむ庭にさかりの梅の花見に　兵庫　清原千代野

○嬉しくもそゝろあるきに見出てけりこの山里の梅のはつはな　東京　阪口順子

○窓の外の梅さきしよりけふもまたなかめくらしぬ文もひらかて　靜岡　清水初子

○梅か香を日ことに人のたつね來て春にきはしき月の瀨の里　大阪　富永才子

○わかにはに梅咲きにけり白とあかいつれを友に折りて送らん　山形　阿部さゐ子

○めつらしく今朝さきそめし梅か枝をまつ手向けてん母のみはかに　三重　玉置美津子

○手向けつる若木の梅の咲く見ればいよいよ墓の主そこひしき　埼玉　水野淑子

○燈火のかけほのくらき賤か家にまばゆく見ゆるにはのしら梅　靜岡　萩原さだ子

○ふたつみつ初花咲ける梅なれとふみよむ窓ににほふうれしさ　群馬　伏島たき子

○紙鳶あけんさはりありとて里の子か折けん梅の香もこほれつゝ　東京　河邊和歌子

○丸木橋渡る袖さへかをるまて野川のきしに梅さきにけり　新潟　三枝操子

○賤か家のかきねつゝきの梅の花けふこの頃やなかめなるらん　靜岡　青木きぬ子

○なつかしき友うちつとひ咲にほふ梅のはな見るけふのたのしさ　埼玉　加藤美代子

○みるもの〻春はたのしき中にしも梅の花こそあかれさりけれ　根室　瀧澤初子

○思はすも友に出あいてくらふ山今日はたのしく梅を見しかな　新潟　三枝まつ子

○咲きしより木陰になれて梅の花心に折らぬ日はなかりけり　埼玉　山崎よし子

○身は高きかをりのうちにつゝまれてかへさわするゝ梅の下かけ　東京　鈴木菊子

○あさみとりまた色そへぬ野つかさに梅のみしろく咲きみてるかな　新潟　三枝靜子

○ふるゆきの中ににほへる梅の花いとたふとくもあふかれに鳧　東京　林えい子

○さきしよりとひくる人の袂にもあまるは梅のにほひなりけり　埼玉　山崎匡子

○ゆき霜をしのきてけふの春風にかをりそめけり梅の一本　東京　濱田直子

○いましはし車止めて見たきかな梅のはやしをすくる間は　愛知　市橋いく子

○立かへり見れともあかぬ野路の梅一枝手折りて家つとにせむ　岡山　谷とめ子

○もの〻ふか立しいさをの雄々しさを梅のいろ香にしのふけふかな　東京　五藤敏子

○としふりて千すちの枝の梅の花かをれる雪のつみやしつらむ　德島　一山たか子

○春の野につみし若菜の籠さけてしづが梅見るをとめ子のむれ　函館　山本せい子

○春風はまたさむけれと友とちと梅見るけふはいとはさりけり　三重　諸戸常子

○いつみても心のはるゝ梅の花けふはことさら盛りなるらむ　岡山　貝原すゑ子

○ますらをかいさをに似たる梅の花くらふへき香の又もあらなむ　石川　新田暉子

○みきふりてくろかねなせる梅か枝に春をしらせて花そ咲きけり　德島　渭津みね子

▲投詠數　三百二十三首

第二十回作歌募集
題　春の海
選者　某公爵夫人
規定　一人三首以下
期限　二月二十日限り
優等の作歌は三月五日發行本紙上にて披露すべし

第十三回短文募集
題　旅行
選者　編輯局同人
規定　一行十八字詰十五行以下
期限　二月二十日限り
優等の作は三月二十日發行の本紙上にて披露すべし

第壹回俳句を募る
題　土筆
選者　編輯局同人
規定　一人三句以下
期限　二月十日限り
優等の句は二月二十日發行本紙上にて披露すべし

第二十一回作歌募集
題　櫻花
選者　某公爵夫人
規定　一人三首以下
期限　二月二十五日限り
優等の作歌は三月五日發行本紙上にて披露すべし

第十四回短文募集
題　春雨
選者　編輯局同人
規定　一行十八字詰十五行以下
期限　二月二十五日限り
優等の作は三月五日發行の本紙上にて披露すべし

第二回俳句を募る
題　桃花
選者　編輯局同人
規定　一人三句以下
期限　二月二十五日限り
優等の句は三月五日發行本紙上にて披露すべし

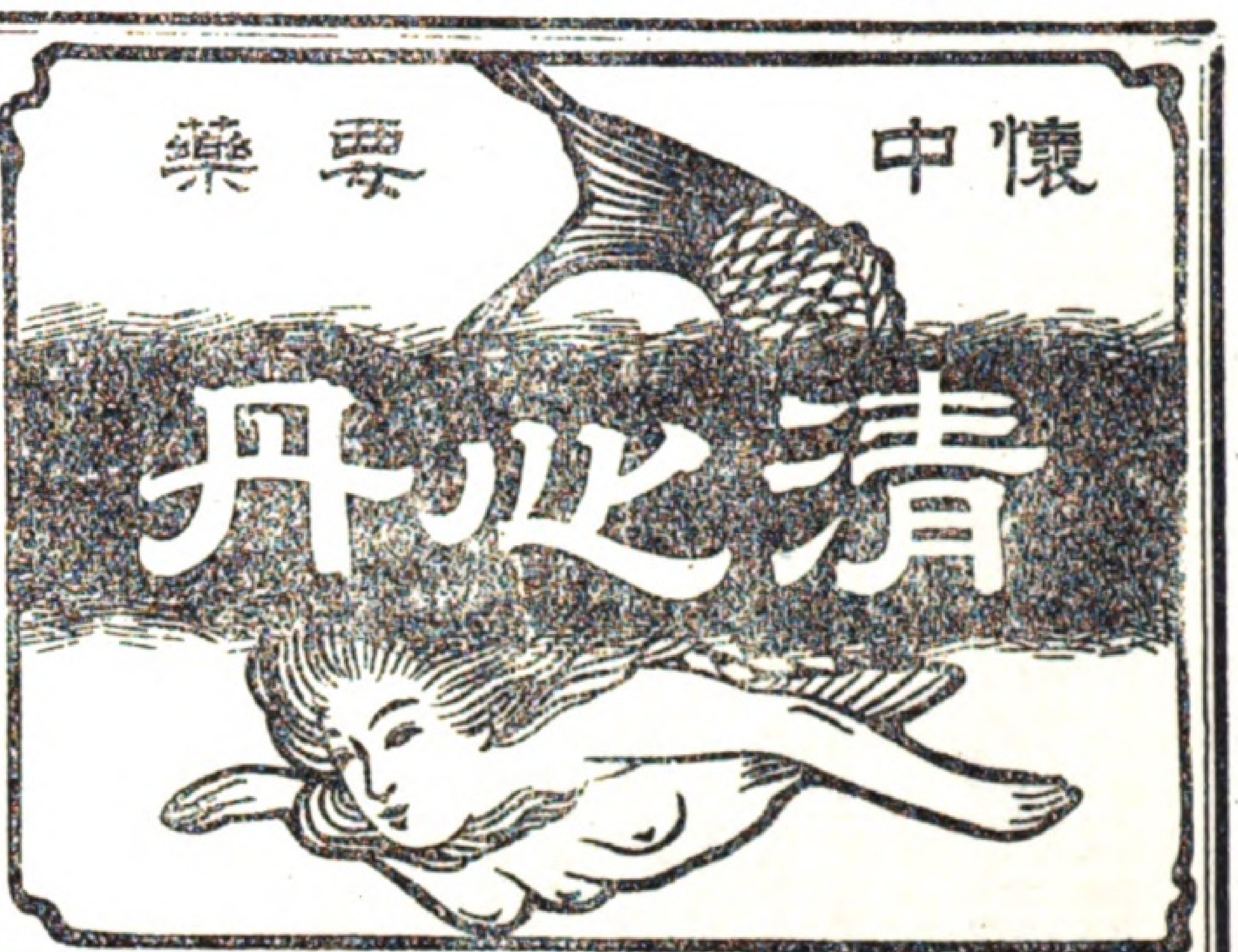
奥村刀自從軍紀念　好評第四版出來

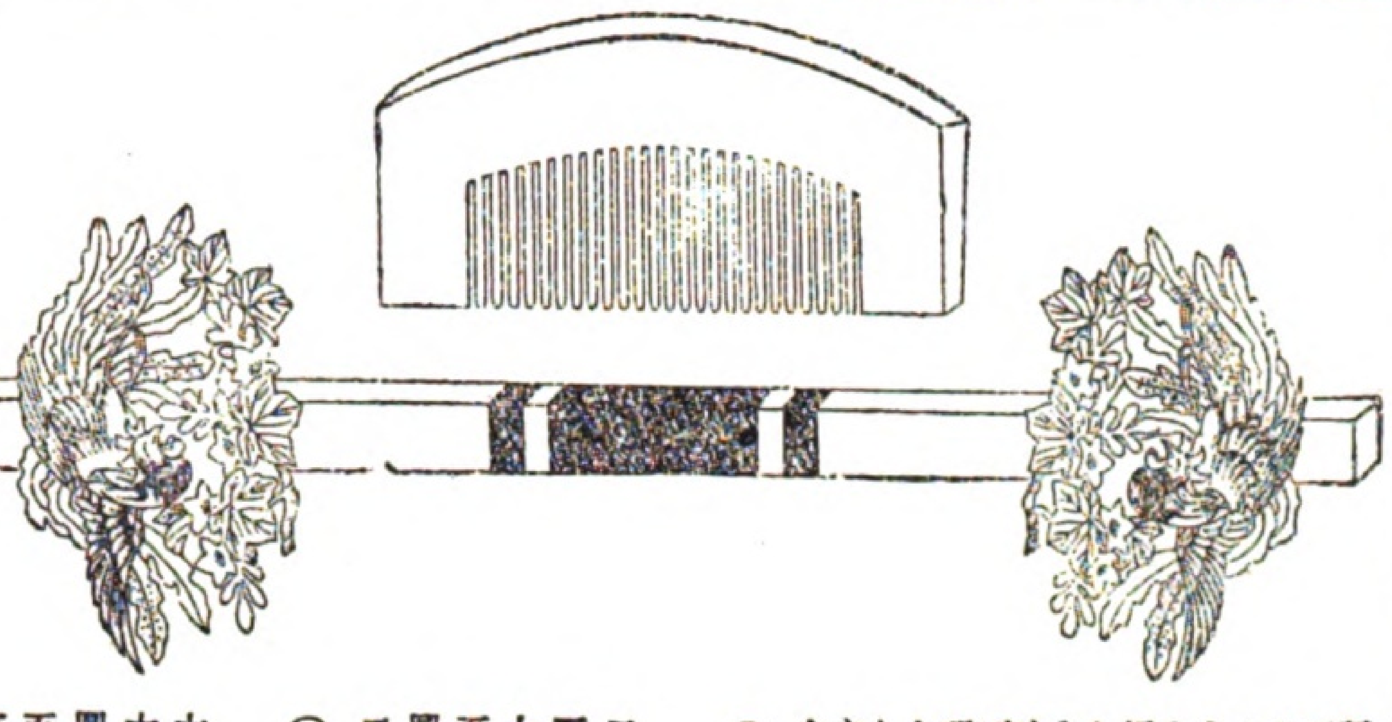
婦人の慰問使

一部拾錢　郵便金不要　紙數百卅頁　美本

△何故に……此本が家庭の讀物に適すか
△何故に……此本が會員が讀む要あるか
△何故に……此本が學校圖書に撰れたか
△何故に……此本が讀者を泣かしむるか
△何故に……此本が讀者を笑はしむるか
△何故に……此本が體裁よく出來たるか
△何故に……此本が多く寫眞版を入れたか
△何故に……此本が會長の歌を給ふたか
△何故に……此本がよく賣れるてあるか
△何故に……此本が安くて買はれるのか
△何故に……此本が新年の贈物に叶ふか
△何故に……此本が團體て多く買入るか

東京九段　牛ケ淵公園　愛國婦人發行所





上圖櫛笄の材料は鼈甲を以て隨一となせども鼈甲の中にも品質の佳なるもの少なからず此品は鼈甲中の最良質を精選して最良なる工手になりたる物なれば透明にして浮きを生ぜず幾久しく御道具となるべき逸品なり

○本甲製一組價　二十五圓　三十五圓　五十圓　七十五圓　百圓　百五十圓　二百圓　二百五十圓

○甲張製一組價　十圓　十二圓　十五圓　十八圓　廿圓　廿五圓　三十圓　三十五圓

東京市京橋區尾張町
白牡丹本店
松田幸治郎
電話新橋五五一番

女俳優マダム川上貞奴　西洋みやげ
佛國巴里シャルコー病院ドクトルベルガニー先生發明

ヤッコ

此「ヤッコ」にて顔を洗へば西洋早化粧ゆへ日本流の薄化粧をせずとも顔をきれゐにし常に用ひれば白色人種の如く色を白く艶を出し顔の小皺をのばし皮膚を滑にあらすことなく白粉のつきをよくす論より證據皆さん洗つて鏡を見よ

●●定價一鑵廿錢全國送貨四錢三鑵美麗函入五十五錢同送貨十錢（へ此箱入には西洋男女化粧法の秘傳をくわしく書たる榮本を添ゆ）

カール

此「カール」は佛國一流の女俳優「サラベルナ孃」愛用の毛養劑にして第一毛を生し、毛を良くし毛をフックリとしてくせと縮毛を直す、油を代用し毛のねばりとよごれを取りサラ〳〵として衣類をよごさず東髮婦人下げ髮の令孃方には無くつてならぬ發明品、島田、丸まげにはびんたぼを……フックリさせ髮形をよくすること妙●●定價七袋分入廿二錢全國送貨四錢　三袋入十二錢一袋入五錢同送貨二錢

東京神田區御成道裏代町九番地
ヤッコカール日本一手發賣元
地球堂　田中丹治

●ヤッコ。カールとも全國有名小間物店賣藥店に發捌あり若し無くば代價へ送貨を添へ本店へ注文すれば急送す

御題柄新年河
ゑり帶揚類
新春期節模樣縫入鎌倉好み

○肩掛輸出向羽二重製高貴ショール○絹毛○おこそ頭巾地○男女方襦袢そて○長襦袢○肩裏地○男襟巻○勅題柄凱旋帛紗○襟飾

新橋竹川町十二番地　電話新二〇二七　本店ゑり治
神田表神保町壹番地　電話本局九五二　支店ゑり治
新橋際　帝國博品館内階下ゑり治出張店

▲世界のしんぶん▼

◉女子の内職料　造花の手間賃は薔薇花一グロスに一圓、林檎花一本の幹に七つの花つきたるもの一グロスに五拾錢、菫一グロスに二十六錢、又マッチの箱張りは一グロス十一錢なりとこれは英國ロンドン市にて現今の相場なり

◉最少額の年金　英國ポーツマス（海軍鎭守府のある處）に住する一老水夫の政府より受くる年金は世界中最少額のものと信ぜらる其高我凡十六錢にして年四回に下附せらる每回四錢づゝにして收入印紙にて下附せられ、其度每に水夫は一日の休暇を得て、此印紙を現金と引かへに出かくるなりと

◉高給の家庭教師　是は米國にての事なり、ホイットネイ家の家庭教師ビアトリースベント孃は年額四万圓、セント、ルイ市の富豪ノックス未亡人の相談役なるハリエットゲール孃は年額二万圓、ブラオンといふニューヨーク市の富豪の家庭教師はカテリーン、ホワイトと稱して、年額一万五千圓、又英國の大家アーモア氏の家庭教師は年額一万圓の俸給を受くるとぞ

◉珍らしき競爭　英國にてありたる事とて傳ふる處によれば同國テボンシャーといふ州の一都市にて牡雞鳴合會といふもの行はれたり、最も聲の高く又長く鳴きたるものには賞與を授くるなりと、此の時の一等は十七分間に五十一回鳴き、二等は四十二回、三等は三十三回鳴きたりと因にベルジューム國の職工は此の遊技を好む事甚しく、最大の雞に至りては一時間に四百六十三回の鬨をつくりたりといふ

◉メキシコの學校　にては小供中教場にて學科に倦怠なりしものは其時間後に卷煙草を喫する事を許すなりと奇なる習慣といふべし

◉アビシニヤ國　（アフリカの北部の國）にては殺人犯の罪人は殺されたる人の親族に下げ渡さるゝなりといふ、此の親類等は全く望みによりては此罪人が殺人を行ひたると同樣の方法にて殺す事を得るなりと

◉西洋の御幣擔　スペイン國にて火曜日には婚姻も旅行もしてはならぬといふ諺あり、此諺は深く同國人に浸み渡りたりと見へ、首府マドリッド府に於ても火曜日には一組の結婚もなく汽車は殆んど全く空なりといふ

◉最屈曲多き河　は今迄は小亞細亞パレスチナ國ヨルダン川を以て世界第一と稱したるが、北米國アーカンサス州ホワイト、リヴアーとは比ぶべくもあらず此の河は直徑三十哩の間を屈曲して流るゝ事一千哩なり

◉雞は長壽　なるものなる事は世人の知る處なるが、此の程の試驗によりて腦髓を取り去りたる後も三ケ月は死せざる事分明となれり又其心臟は體より切り放したる後三十分間は鼓動を止めずといふ

◉珍絶なる印度の儀式　英領印度アムリツアー市の一老婦人は此程其曾孫の息子の出生に出遇ひたり、依て此婦人はスヲルガ、ソペナロハナムといふ儀式を受けたり（昇天式とも稱すべきか）此の儀式は二時間感謝祭を行ひたる後、婦人の前に米を堆高く盛り上げ此上に黃金製の小なる梯子を立てかけあり新出生の男子は連れ來られ老婦人の膝に乘せらる、夫より婦人は右足を梯子の一段目に掛くれば四方より大喝采の聲起り花把は婦人の身邊に降りそゝぐなり

實業之日本社編纂

▲新時代の處世教訓二百則を網羅せる時勢に適應せざるはなく一たびこれを繙かば處世難忽ち一掃せん眞に精神修養の最良師友

向上發展 處世要訣

（新刊）◎全一冊四百頁　◎手代用一割增　◎郵稅六錢◎切　四拾錢

西岡英夫君著（報知新聞記者）

極めて通俗に極めて適切の文章を以て立身と繁昌に必要なる方策捷徑を説く眞に是最新の良著書

立身と繁昌

（新刊）◎手代用一割增　◎郵稅四錢◎切　廿五錢

東京京橋南紺屋町　實業之日本社　各地賣捌

見よ女學生及び父母實際焦眉の問題

婦人世界

二月三日發行（毎月一回）第壹卷第貳號　一冊拾五錢郵稅一錢　六冊郵稅共九拾錢

口繪　◎竹の園生（光澤寫眞版）◎閑院宮妃殿下と御筆蹟　◎『春の野』（彩色石版）中澤弘光筆　◎佳人の躊躇　◎繪手本（跡見花蹊　中澤弘光）

◎嫁入道具の改良案　實際奇拔　村井弦齋

結婚法改良
漸進主義（菊池博士）
折衷主義（添田博士）
余が理想（村上博士）
根本問題（元良博士）
交際主義（志賀重昂）
余の希望（三宅博士）
戀愛結婚（海老名氏）

▲折衷新家庭園田家
▲山川健次郎氏家庭
▲中流家庭の實行的日課
▲育兒問答……加藤照麿
▲女子特要衛生……伊庭醫學士
▲女子家政經濟法……棚橋絢子
▲家庭と小說……坪內博士
▲津田梅子女史の平生
▲河原操子女史の面影
▲女子教育の本義……篠田
▲女子不可見記……鬼門
▲男子の自白（二つ）
▲女子と園藝……恩田農學士
▲活花しをり……花の本宗壽
▲不意客接待即席料理
▲文藝には河井醉茗、兒玉花外、與謝野晶子諸名家傑作

小說　▲予が小説中の婦人……小杉天外　▲家庭の人……秋聲　▲千代子……星湖

◎現時青春の五秀才を出せる隱れたる家庭と賢母（女子必讀の大文字）

現代女流名家座右銘　三宅花圃　山脇房子　矢島楫子女史

東京京橋南紺屋町十二番地　實業之日本社　電話新橋八四七番　賣捌各地書店

諸官省御用

●夜具・蒲團類　綿ざぶとん

街鐵外濠線も小川町東明館の前に下車を乞ふ

東京神田區表神保町
矢田商店
電話本局二千十八　市內無賃配達

●綿質保險附●正札引なし●絹布仕立あり

編纂主任文學士下田次郎氏

女子教育

第三卷第貳號　二月一日發行　定價拾錢

我國婦人雜誌中最も程度高く讀みごたへあるもの

發行所　東京市神田區錦町壹丁目十番地　明治書院

征露紀念　遼陽總攻擊　壹卷

石版美術掛物用箱入一枚金十四錢郵稅二錢

●愛國婦人會員。赤十字社員。軍人諸君ニ限リ箱ナシニテ大特別金八錢但シ二万枚限

○同掛物用仕立大軸　竪六尺三寸　横一尺六寸　壹幅　賣價金四十錢　郵稅[illegible]錢

●愛國婦人會員。赤十字社員。軍人諸君ニ限リ大特別金三十錢

眞ニ高尚優美ノ密畫ニシテ凱旋將卒ノ土產ニハ勿論床ノ間掛物用ニ適當品

發賣元　東京市淺草區東三筋町九　東京堂
神田神保町　上田堂
京橋區尾張町　東海堂
特約大賣捌　精美館

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

此時季に肌を白く美艶にするハ

二八水

之れ特長なり

東京馬喰町　長瀬富郞製

醫學士　山田謙次先生著(かな付)

家庭衛生及看護法

菊版全一冊▲精巧密畫八十八圖挿入▲優美大和綴紙員四百頁▲正價九十錢▲郵稅十錢

本書は山田先生が多年の實驗に基き衞生及看護の方法を赤十字社特志看護婦人會其他諸種の婦人團體に對し講話せられたる其槪目を擧ぐれば▲解剖生理の大意▲住宅家屋衣服の攝生▲傳染病に對する心得▲外傷出血に對する救性處置▲家內患者の看護法▲姙娠分娩產褥時の心得▲小兒の養育法▲病家と醫師との關係等其他五十回の講義にしてペスト及其豫防法の如きも精密に細論せられ毎編圖畫を挿入す文章流暢尤も平易懇篤に講述せられたる故に一般看護人は勿論家庭の參考書とし亦教科用及び衛生的講話の資料として完全の良書なり

▲醫籍藥學書類及醫療器械專賣店

發兌元　東京市本郷春木町　電話下谷二千八番　半田屋

高等香油

チエリーオイル

紳士貴婦人令孃用

品は無色透明さらくとして此の如く香氣は香水に異ならず故に紳士は勿論、貴婦人令孃方に目下大に流行せる彼の束髮用としては非常に高評を博しつゝあり

定價八十五錢、四十五錢、廿五錢(送料各十錢)

賣捌は全國有名なる小間物化粧品店にあり

發賣元　東京日本橋區本町二丁目　高橋初次郎　特電四一二三番

從四位淺田宗伯先生直傳　淺田飴

たんせきに淺田飴

空腹にめし

良藥にして口に甘し

定價　金五拾錢　金參拾錢　金貳拾錢　金拾錢

本品全國到る處の藥店に販賣す

本家　東京神田鍜冶町　大阪北久寶寺町　堀內伊太郎

新聞の新聞

◎東京朝日新聞　新首相の演說に注目す可き點あり　首相は擧國一致以て戰後經營の大計を樹つ可しと云ひ又議院に向つては戰後經營の大綱綸を遂するに於て協力一致國論一定を希望したり　此希望の裏面には政府が未だ大綱綸を有せず此より一致して之を造るの意味を含む事實に於ても又然らん　綱綸成案を次年度に讓れる前內閣の餘剩案をそのまゝ蹈襲し居ればなり

◎日本　今日の大臣は多くは廿三年の當時眇たる卑官殆んど小使視せられたる者　案上の簿本を取扱ふ外何の苦勞もなく俸給を受け錢登りに安すく大臣と爲るを得たるなり　之に反し歳費以上の運動費を抛ち　解散を睹し議員となり大臣とならんものと比ぶれば其難否何れぞや　茲に政黨より入つて大臣となるも統轄す可き事務の內容に通ぜず　次官局長に尋ねて始めて悟る處多く勢ひ局長政治を免れず若し夫れ政務官と事務官の分界を立てんとせば政黨員たるもの大に奮勵努力せざる可からず

◎讀賣新聞　國本培養策に就て横井農學博士は二三の意見を立てゝ曰く　第一に農事視察官を置く可し此必要は現今各地に行はるゝ農事改良に對する政策は不當なるもの なきにあらざれども　之を視察し監督し教訓する爲に必要である　第二は農業高等會議の設立これなり此會議は官民共力の基礎を作るものなり　國本培養策が議會を通過せしに拘はらず　前內閣に於て容れられざりしは農業者の政治上に於ける無勢力を意味するものなれば　農界の有志は勢力扶植に向つて努むる處なかる可からず

◎報知新聞　今の時に當り現內閣たるもの斷然として決し天下の國論を味方とし其地歩を固め以て　其經綸を建てんか今や實に好時機に會せり　然るに現閣の組織に於て既に此大活斷を爲すの餘地なく　前閣の成案を蹈襲し其結果命を前閣僚に乞はざる可からず　其苦境實に憐むべし

◎毎日新聞　英國政界の教訓との題下に論じて曰く　英國公衆は總選擧に對して頗る熱心なり　如斯熱心は單なる競爭心單なる請願熱に非ずして　政治に對する利害の感覺銳敏なるが故なり　是れ國民智能の程度にも依れども又政治教育の多少によるなり　第二は英國選擧民の政治的智識に富める是なり彼等は單なる感情に依つて動されず主義政見に基いて候補者を選定せんとするなり　願みて我國情を見るに果して英人の如き識見と熱心とあるや轉た政治教育の必要を覺えずんばあらず

◎萬朝報　先づ一致を要するもの有りとの提論の許に結論して曰く　西園寺首相にして眞個に擧國一致の必要を提唱し擧國一致を國民に求めんと欲せば　先づ自から其の閣僚の一致を保證し來れ　先づ自ら其政見の一致を確實にし來れ　然らざれば我が國民は首相の要求を一の滑稽劇と爲し若くは僭越の誹と爲して　之を一笑に附すべき也

◎二六新聞　今や百万の窮民は寒天雪地に困憊して凍餒を東北の曠野に號泣す　之を救濟扶助せんとす是れ刻下の急務に非ずや　而て如何にせば之を救ひ得るか救濟者の大に考慮す可き問題なり　若し救濟方法の一として生產事業土木事業を起すが如きは　當局者の既に施設しつゝありと云ふ　有志家が中樞となり救濟會を設くる今日に方り斡旋の人々は奮て之が扶助の任に當らざる可からず

◎時事新報　師團增設に關聯する豫算の議會に提出せられたる折柄四箇師團の增設は帝國の利權膨脹上止むを得ざる事寧ろ至當のとなるが是れに伴ひて二年兵役制の實行されんことを勸告すとて是れに對する種々の方法を詳論せり

最上醬油元祖

上

醸造元　下總銚子町　濱口儀兵衛

荷扱所　東京北新堀七番地(電話浪花二五九四)　濱口支店

○宮內省御用達也
○開業二百六十一年
○品質の吟味嚴重也
○風味他品に超絕す
○日本一の醸造高也

北海道函館末廣町　濱口支店

大阪西長堀南通二丁目電特(西二〇〇五)　濱口出張店

登錄商標

市內ハ御用次第參上一報直ニ伺仕候

縮緬染物類　手さげ　手拭類

佐竹組本舗

定價表ハ御申越次第呈送仕候

當藥局は何故に安心して調劑を依賴し得る乎

▲最も經驗に富める藥劑師をして專ら調劑のみを擔任せしむ
▲故に藥局の職責上常に周到なる注意を以て調劑の業務に從事す
▲尙使用する藥品は皆嚴密なる檢査を施したる者なり
▲調劑は親切丁寧にして迅速なり
▲藥局の設備又整頓し居れり
▲以上の事實に依り安心して調劑を依賴し得
▲醫師がよくても調劑が惡ければ何の效果をなし

帝國大學醫院　日本赤十字社病院　各公私立病院　醫師處方調劑

神田區今川小路三丁目角

東京郵便局指定調劑所

尾澤純良堂藥局　藥劑師　大西橘二

電話本局一五一八番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

弦齋式料理服無料進呈

增補註釋 食道樂

春の巻　冬の巻　秋の巻　夏の巻　合本　定價金貳圓　郵税拾五錢　臺灣 清韓 卅五錢

來る二月十五日迄に（遠地讀者の希望に依り進呈期間延期）非常廉價なる食道樂合本を買ふ人は各一冊毎に外國製繪葉書の景品を得べく又十人に一人の割合を以て弦齋式料理服引替券の封入しあるものに中り給ふの福あるべし、其券を報知社出版部又は新橋堂書店へ御持參あれば弦齋居士夫人の考案と實驗とに成り三越呉服店にて新調したる最便最利の料理服一組を進呈すべし

▲東京市麹町區有樂町二丁目　報知新聞出版部　▲東京市京橋區出雲町　新橋堂書店▼

各國帝室及ヒ王家御用

ネッスレスミルクフウド

歐洲諸國及本邦名醫ノ讃辭ヲ辱フセル者ナリ、小兒、病者又平素不消化ニ苦ム者ニ過當ナル最良滋養食物ナリ。最モ盛ニ藥舗洋酒食料品店ニ於テ販賣ス

●色白く艶をだす

松澤ボーサン石鹸

（大形一個廿錢　小形一個十錢）

●近頃にせ物多し御買求の節は商標及松澤名義に御注意

●當市内は勿論到る所賣藥小間物化粧品店に於て販賣す

東京本石町四丁目　芳香藥種問屋　ムスク香水本舖　松澤常吉

東髪用トシテ　無比ノ良香油

東京本郷三丁目

かねやす

電話下谷一三三六番

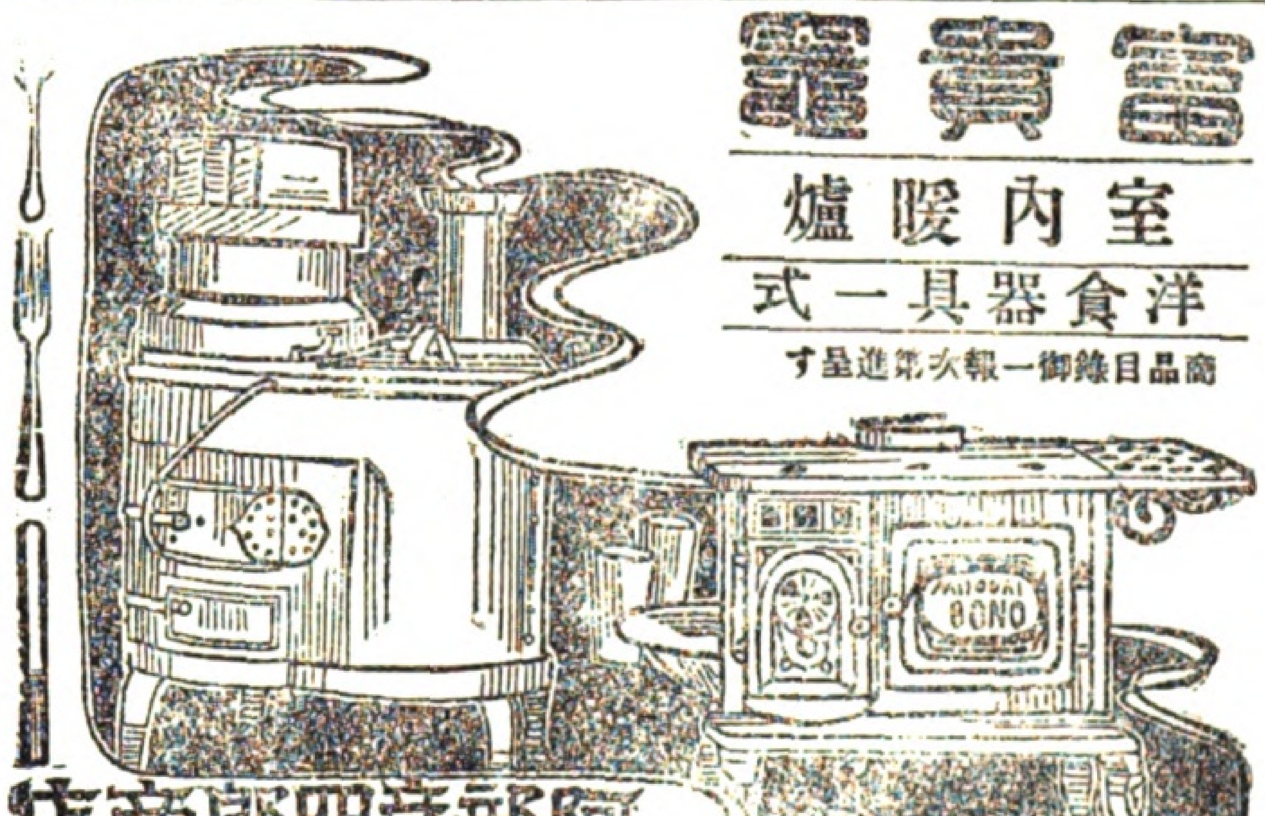
輕便料理ストーブ（特許）　一名改良テンピ

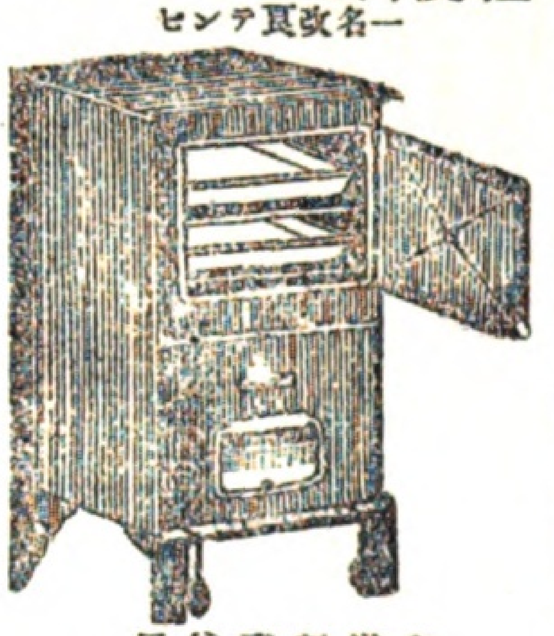
富貴竈

室内暖爐

洋食器具一式

商品目錄御一報次第進呈す





和洋割烹兼用

輕便にて完全に料理ストーブの効用を爲す、和料理に用ひ手極便利にして頗る妙なり　定價小　圓六拾四　大六圓錢

阿部彦四郎商店

淺草茅町須賀橋際　電話下谷一九三二番

●口繪寫眞版三十二頁●圖書五百餘箇

家庭に智識と教訓と趣味とを與ふる本書の特色

本書收むる所は家庭に於ける衣食住の全部と之に關聯したる交際禮節等の事項とを細大となく網羅して五十音順に排列し機に觸れ時に臨みて智識と教訓と趣味とを併せ得らるゝやうに編纂したる者也其の内容は織物の名稱産地織り方、各種衣服の裁ち方縫ひ方、染物、洗張、洗濯、汚染拔、食品の成分、和洋の料理及献立、菓子の製法、各種器具調度の目的及扱ひ方、家屋の建築、間取材料の選擇、庭園の作り方、觀賞植物及其培養、養鷄飼畜等は勿論子女の教育婢僕の扱ひ方、交際上の禮節贈答、接待の仕方を始め家事經濟、衛生育兒、看護治療、冠婚葬祭、茶の湯、活花、編物、造り花、刺繍、音樂遊戯、美容術化粧等の各方面に互りて精査つくし之を平易に記述し説明を補ふに圖畫五百五十餘箇を以てしたる家庭專用辭書の嚆矢とす、されば一家の主婦としては勿論其子女をして本書に接せしむるは學校の教育にも優るべくこれによりて一家團欒の趣味は層一層濃やかなるを得べし故に一家の主人たる方は必ず之を家庭に備ふるの必要あると共に一般の男子も繙いて得らるゝの利益は決して女子に劣らざるものあらん

四六版舶來上等紙刷總クロース八百餘頁　特價金壹圓十五錢　●小包●定價金一圓廿錢●代金引換は送料共一圓廿錢

郁文舍編輯所編纂

家庭辭書

特價割引期限　明治卅九年二月末日限　●製本既成

大景品券

●皇軍凱旋紀念の爲め大景品書籍券を本書三萬部に對し左の通り挿入せり

十圓券　五十枚
三圓券　二百枚
一圓券　五百枚
五圓券　百枚
二圓券　二百枚
五十錢券　千枚
景品券金額合計參千圓

此景品券は通貨と同樣郁文舍出版書籍大賣捌所にて如何なる書籍御買求め相成候とも御隨意の事辭書及舶來書を除く

一家團欒の快樂は本書正に其媒介を爲す

發行所　東京市京橋柳町石沿地　郁文舍　●大阪市東區南本町四　積文社　賣捌所

本會講義録の評批

▲報知新聞評　高等女學校の全學科をば知名の女子教育家が講述せるものなれば、何人も難解の虞なかるべく、各科皆聯絡を保ちて其程度を一にせるなど、講述者の苦心を見るに足る、且つ有益なる科外講話の外に「姫百合」と題する五十頁の附録あり博士學士等の婦人に關する評議史傳衛生家庭等の文字を滿載して、一面雜誌の觀を備ふ、巻末更に田口掬汀の「學者の妻」といへる面白き小説あり、凡そ天下講義録多しと雖も、實益と趣味と併せ有する事斯くの如きは稀なりと云ふ可し

▲中央新聞評　講述何れも平易にして親切を極めたれば初學の講習に最も可也

▲毎日新聞評　米國の通信教授法を參酌せる者、文字平明説明懇篤を盡くせり

▲朝日新聞評　女學獨習の便を圖り平易懇切を旨とせる女學講義録を發行せり

▲日々新聞評　講義はすべて平易と親切とを勉めて毫も難解の憂なきに似たり

▲都新聞評　講義平明用意親切なれば數多き女學雜誌中一領域を招き得可し

▲貿易新聞評　從來の講義録中最も進歩したるものゝ一、三百頁の大冊子なり

●東京神田南甲賀町十番地（電話本局三千四番）

大日本淑女學會

高等女學通信教授　▲貳ヶ年卒業　▲講義平易懇切　▲講師は専門の名家　▲講義録月刊一冊參百頁　▲會費低廉

目下入學の好機　詳細なる規則は申込次第進呈す

醫院案内

●産科婦人科　芝區明舟町十九番地（電話新橋三三二四）　櫻井醫院

内科小兒科特に吸呼器病　麹町はやぶさ町二十八番地　ドクトル　川瀬元九郎　電話番町八二二

院長　醫學博士　榊順次郎　毎日午前診察
副院長　醫學士　久保徳太郎　毎日夕刻診察

婦人科産科榊病院　東京麹町三番町卅三　電話番町三九五

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

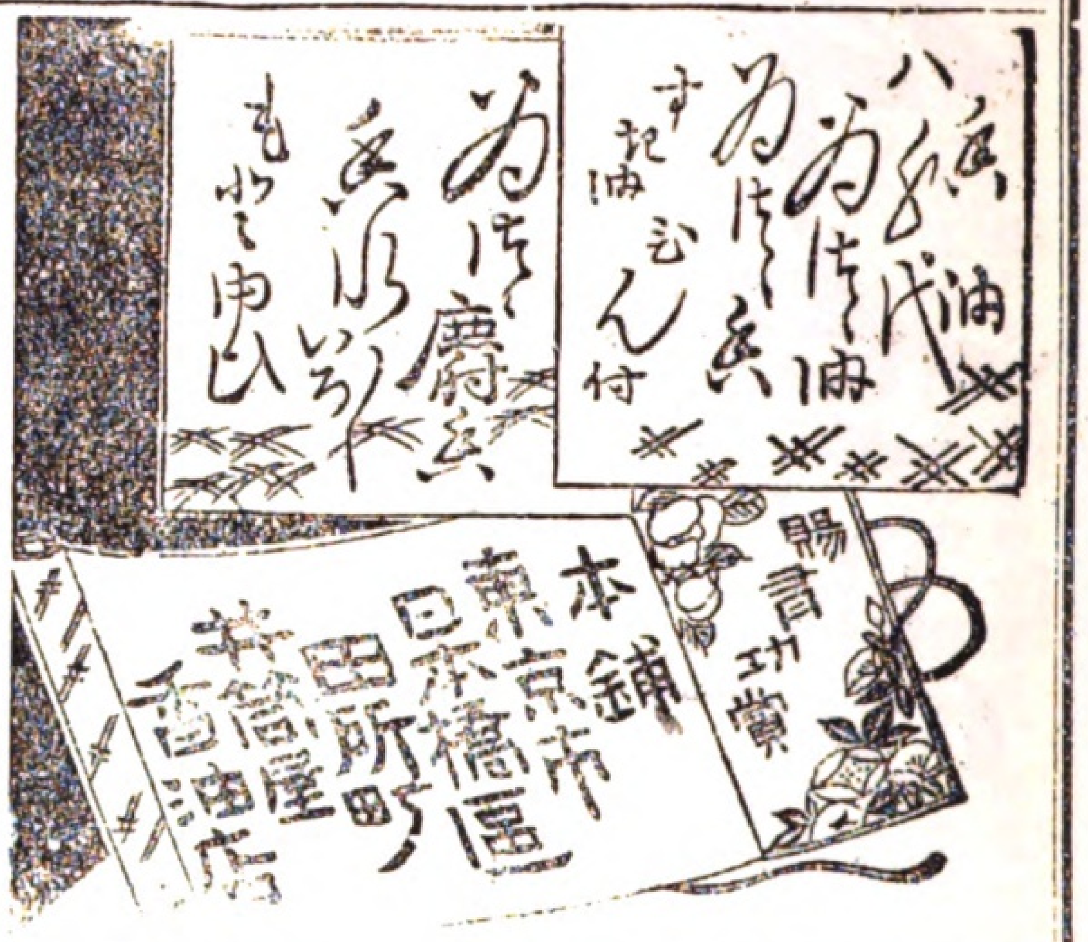
東京市麴町區錢瓶町（常盤橋内）
日本興業銀行
電話本局（三、三〇〇番 四一番 (特)三七番 一〇二番）
一定期預金　年五分
一當座預金　日步七厘
一特別當座預金　日步一錢

東京市日本橋區通一丁目
合名會社森村銀行
電話(特)本局六七三番
定期預金 六ヶ月以上 年六分
當座預金 百圓に付日步 壹錢
特別當座預金 同日步 壹錢參厘

資本金千八百萬圓
東京京橋區木挽町
株式會社十五銀行
電話新橋（三〇〇番 一五三〇番 三一九三番）
同日本橋區新乘物町
同日本橋支店
電話浪花（一九〇一番 三二七四番 三五〇八番）
一定期預金 六ヶ月以上年五分
一當座預金 日步七厘以下
一特別當座預金 同 壹錢

スコット乳劑
咽喉肺病其他諸炎症貧血ニ著大ノ効驗アリ早ク試賜ヘ
説明書ハ横濱郵便局私書函第五十八号
スコット乳劑部ヘ御申込アレバ無代價ニテ進呈ス
代理店横濱市山下町廿八番館
米國貿易商會

◎牛豚肉販賣及西洋料理◎
●品質佳良の肉類廉價に販賣候
●配達は迅速に且つ正確に致候
●滋養と風味の西洋料理調製候
●西洋料理出前は格別相働き候
●米店は精撰の白米廉價販賣候
●御注文は電話又は葉書て願候
小石川表町廿二番地 電話番町六五九 西川本店
本郷區駒込東片町五番地 電話下谷二三七一 西川支店
小石川表町十一番地 電話番町一四六一 西川洋食店
小石川表町十八番地 米穀商 西川嘉門



美人ムスク石鹸

此全形ナキ物ハ模造ナリ
美人ムスク白粉
輸入元 東京市日本橋區和泉町 桑原花生堂

東髮
英字どめ
專賣特許
奇拔ノ形式ト數多ノ長所ヲ有スル本品ハ既ニ世ニ高評アリ
販賣ハ至ル所ノ小間物店ニアリ
保田

髢之親玉
東京日本橋區長谷川町 電話浪花二八五九番 卸部美濃磯本店
本郷區本郷五丁目 小賣部 美濃磯本郷支店
淺草區諏訪町 電話下谷一四一五番 美濃磯淺草支店
日本橋區佐内町 美濃磯佐内町支店
神田區小川町 美濃磯神田支店
深川高ばし際 美濃磯支店
芝區新櫻田町 小田商店
牛込區神樂町一丁目 伊澤商店
四谷區傳馬町一丁目 伊澤支店

神田區今川町三番地（電話本局三〇一九）
内科病特に腦脊髓神經疾患
峰内科醫院
院長ドクトルメヂチーネ 峰秀世

◎婦人科 ◎小兒科專門 午前宅診 午後往診
東京市麴町區飯田町四丁目九
女醫鷲山彌生

東京神田錦町參丁目 電本七一五
山口眼科病院
診察午前午後 入院隨時
院長醫學士 山口秀高

東京神田區美土代町三丁目十七番地
内科一般
午前往診 午後宅診
板垣亨
電話本局貳千九百七十番

●水原産科婦人病院
○所在神田區猿樂町十二番地（電話本局千八百〇九番）○外來診察午前中○入院往診隨時○同院に私立産婆學校の設あり

産科婦人科專門 ドクトル樋口繁次
歸朝後於本院診療に從事す
各科診察從前の通
東京病院
芝愛宕町 電話新二六四

院長醫學士鳥山南壽次郎
鳥山内科院
午前診察 午後往診
京橋區鎗屋町十一番地 電話新橋千七百四十六番

小兒病診療
宅診午前 往診午後
淺草區福井町貳番地
醫學士内田愼太郎
電話下谷七一八番

京橋區南鍋町一の一角
産科婦人科 ●朝八時より正午 ●夕五時より八時
醫學士伊庭秀榮

○本年四月二日ヨリ第二十四回産科婦人科學講習開始ス志望ノ醫士ハ申込マルベシ
○高等産科婦養成所入學志望ノ女生ハ來三月三十一日限申込マルベシ
東京日本橋區濱町三丁目七番地
産科婦人科楠田病院

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

明治三十九年二月五日發行（毎月五日二十日二回）

愛國婦人廣告取扱

京橋區數寄屋橋外　弘報堂
神田千代田町　博報堂
京橋區南紺屋町　一星社
京橋區南鍋町　秀逸堂
日本橋區上槇町　萬年社
日本橋區箱崎町　春風舍
京橋區宗十郎町　正路喜社
京橋區日吉町　帝國通信社
同區彌左衛門町　京華社支店
同區南鍋町　廣告社

洗用　ワッセル

●此ワッセルは油じみ油あか如何なる汚れでも採ずに必ず落る石鹸曹達の如く布を損傷せず染色を褪さず費用と手數を省く經濟上有利なる日用品であります

●用法は湯一升に二匁（小杯へ半分餘）の割合にて溶解し洗濯物を凡二時間浸し揉ずに置き後湯又は水にて洗へば自然に脱ますシャツの如きは（拾弐匁）入一本にて貳百枚は必ず洗へます御婦人の髮は一匁五分を一升餘の湯に溶解してかもじを洗う用に採ずに洗へば玉子で洗た様になります又食器臺所道具を拭き掃除にも有効です

定價　拾弐匁入 金拾五錢　六匁入 金八錢　袋入二錢

芳香御肌洗粉　ワッセル

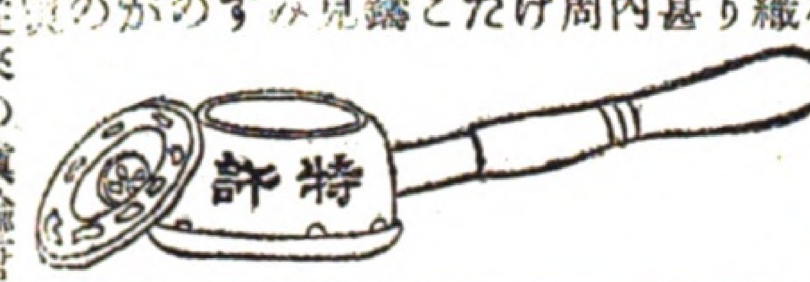
●此肌洗粉ワッセルは當時歐米各國貴族社會に流行する芳香類を加味し製造せしものなれば朝夕御使用の方は香氣馥郁として肌持晴々す又おしろいしたを用ひずして御化粧が出來ると妙なり

定價　最上 金七拾五錢 金貳拾錢　普通 五拾錢 六錢　參拾錢 三錢　拾七錢

洗國ワッセル日本一手販賣元　御肌洗ひこ芳香ワッセル製造元
東京市京橋區三十間堀三丁目　電話新橋一七一二
三友商會

農商務省專賣特許
火熨斗（ひのし）
大九拾錢　中八拾五錢

本器は歐米各國の火熨斗を參考として久しく實驗の上我國に適する機發明せしものにして毎戸に缺くべからざるの要具なり抑も我國從來の毎戸に使用する所の火熨斗は銅鐵鍮唐金を以て製造したるが故に衣服に見惡しき光澤を生ぜしむるのみならず洋服東コート等の如き毛織物の製の衣服には甚だ不適當なり其上炭火消へ易くして使用上甚だ不便なり然るに本器は底の内面に一種の隆起部を設け且つ周圍の下邊に數個の通風穴を設けて炭火の起りを善良ならしめたるが爲め底板に熱の傳導すること均等なり其上精製せる鑄鐵にて製作せるが故に衣服に見惡しき光澤を生ぜしめざるのみならず木綿類毛織物等に使用するも從來のもの如く火熨斗の爲め底荒れて絹物を損傷せしむるが如き憂ひあることなし近來裁縫師及び洗濯師の用ゐる火熨斗は總て鑄鐵製なるを見ても從來の鍮鈴唐金製等の不適當なること明なり
尚今回圖の如く優美の蓋を附け灰ほこりの立つを防ぎたる完全無缺の發明品なり



製造發賣元　東京日本橋區本銀町三丁目
永瀨近藏

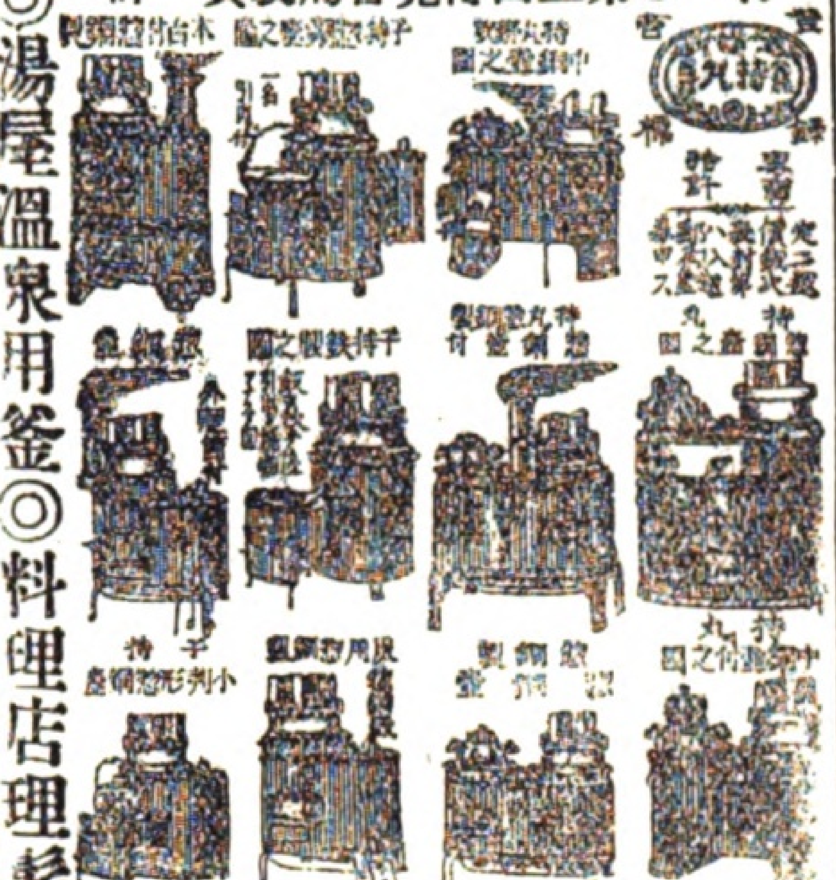
歐米化粧品輸入商
東京濱町一　電浪一一〇
平尾方店
香油ゴールドオイル發賣元

（本場の特色）
日本第一の大勸業場

◎あらゆる物品を格安の正札附にて陳列販賣し御買上品は市内無賃にて配達致します
◎御進物用物品切手を發賣して御望の品と引換ます

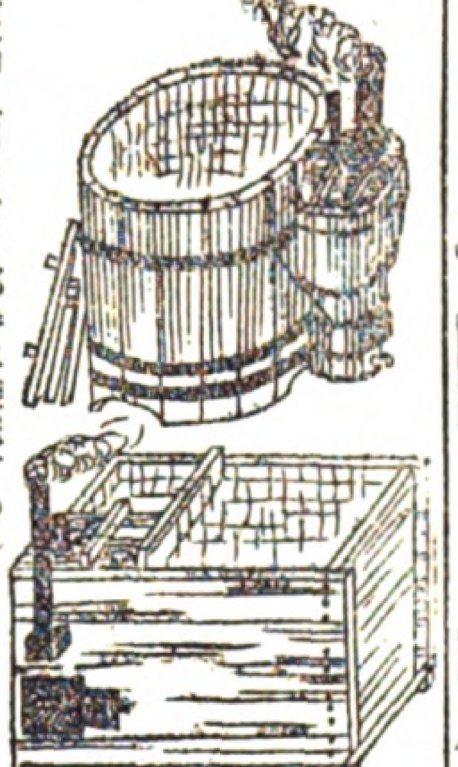
東京新橋角　電話新橋（一六五二 二二六二）
帝國博品館

特許　第五回博覽會褒賞賜



◎湯屋温泉用釜◎料理店理髮店用湯風呂◎豆腐箱

同機罐式据風呂



◎定價表御入用の方は郵券二錢送付あれ
製造　日本橋區蠣殻町二丁目十五番地　名和商店
販賣元　神田區和泉橋通松永町十八番地　名和支店　電話浪花千百七十七番

（ラクダ印）

（麝香石鹸）
ラクダ印麝香石鹸は高貴なる麝香に優すべきスミレの香料を多量に含むが故に一度使用せば其香氣身体は尤より手拭タオルハンカチーフ及び浴後のゆかたに至る迄うつり香いたし五日間は依然としてかほりを失なはざる効力は舶來品にも未だ見ざる特點を有す
◎定價（大形廿錢 小形拾錢）（熱心勉強なる和洋小間物商並に化粧品店にて必ず販賣せり）
近來類似品有「ラクダ印」と井上に御注意
東京本石町三丁目十八番地　芳香藥種問屋
井上太兵衛

大日本女學會

會員募集

●本會は十年來女學の通信教授に任じ本會の教を受けし者既に三萬二千人に及べり
●本會は伏見若宮妃殿下を名譽總裁に奉戴し鍋島侯爵夫人會長として會務を監督す
●本會が十年來女子教育に盡せる事　皇后陛下の御聞に達し特に御歌を賜はりたり
●本會の講義錄に高等科と簡易科とあり高等科は月謝四十錢簡易科は同二十錢なり
●今度新學期を開き會員を募集す淑女たち入會申込あれかし
東京市麹町區下二番町三十七番地　大日本女學會　電話番町一三三〇
●詳細なる會則希望者はハガキにて請求あれ

營業案内は往復葉書にて御申越次第送呈仕り候

各女學校御用
美術造花材料各種
東京日本橋區横山町一ノ十六
天野卯兵衛商店
（電話浪花一六四三番）

戰勝紀念ピン

銀金の地金に七寶の彩色うるはしく圖案は孰れも陸海軍を象れる優美なる意匠に成れるもの世の紳士淑女たちはその各胸間に飾りて此の千載一遇の皇軍大勝利の紀念としたまへかし。
定價（純銀製 一個 金三十五錢以上／餘は御好み次第迅速調製可仕候）
手釦は孰れも陸海軍を象れる優美なる意匠を凝らしあれば世の紳士たちは洋服に飾りて皇軍大勝利の紀念としたまへかし。
此圖案の外陸海軍連勝にちなめる斬新の意匠を凝らしたる提物澤山出來致居候
宮内省御用達　東京市下谷區池の端仲町
玉寶堂
電話下谷（特九六五番 一二四四番）

發行兼印刷人　山澤俊夫　編輯人　手島益雄　發行所　愛國婦人會内

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN